

第2次加賀市 観光戦略プラン

石川県 加賀市

第1章 加賀市観光戦略プラン策定にあたって

- 第1節 背景
- 第2節 目的
- 第3節 実施期間

第2章 加賀市の目指す姿について

- 第1節 現状
- 第2節 課題
- 第3節 数値目標
- 第4節 コンセプト

第3章 加賀市観光戦略プランの概要

- 第1節 加賀市観光戦略プラン概要図
- 第2節 戦略・施策・事業の概要
- 第3節 戦略推進に向けた関係者の役割

第4章 展開する事業の詳細

- 第1節 戦略1：地域の魅力創出・向上
- 第2節 戦略2：自然・歴史・文化資源の観光活用
- 第3節 戦略3：情報発信強化と営業促進
- 第4節 戦略4：北陸新幹線加賀温泉駅開業への対策
- 第5節 戦略5：インバウンド観光の推進
- 第6節 戦略6：観光推進体制の充実

第5章 総括

第1章 加賀市観光戦略プラン策定にあたって

第1節 背景

2014年度において、北陸新幹線金沢開業を見据えた首都圏への誘客施策とインバウンド観光の推進を中心とした戦略を進めるべく、以降3年間の施策を計画した観光戦略プランを策定し、事業を展開してまいりました。

このことにより、温泉地における観光入り込み客数は2014年の約179万人から2015年には約200万人にまで増加し、観光消費額も約55億増加の約443億円に達し、プランに掲げる目標値を達成いたしました。

しかしながら、その後は、北陸新幹線効果が落ち着きを見せ始め、温泉地の入り込み客数は、2016年、2017年と微減傾向が続いております。

日本においては人口減少が著しく、全国的に国内旅行の需要が年々減少傾向にある中で観光地域間の競争も激しさを増し、国内誘客の難易度は年々高くなっていく一方で、海外からの観光客は増加傾向が続いており、加賀市においても年々増加している状況にあります。

今後は、北陸新幹線金沢開業の効果を継続させながら、首都圏に加え、関西圏や中京圏などの都市圏も視野に入れ、新たな市場を開拓しながら誘客促進を更に強化する必要があります。また、海外に向けては、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催によるインバウンド需要も見据えながら、アジアのみならず欧米圏を中心とした世界各国への働きかけも必要になってまいります。

更には、2023年春には、北陸新幹線敦賀延伸による加賀温泉駅開業が予定される中で、その準備を着実に進めながら、誘客の機運醸成も図っていく必要があります。

そこで、これまでの戦略プランの施策を更に充実させながら、新たな観光需要への対策も展開すべく「第2次観光戦略プラン」を策定することといたします。

第2節 目的

北陸新幹線金沢開業効果を維持させながら敦賀延伸も見据えたプロモーション活動を展開し、首都圏に加え、関西圏や中京圏を中心に全国各地からの誘客促進を図ります。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、海外誘客の促進を加速化させます。

このことにより、市内宿泊施設における入込客数を220万人、これに伴う観光消費額を550億円にさせることを目標に掲げ、その実現を目指します。

加賀市が、国内はもとより、アジアを超え世界から永続的に選ばれる温泉観光都市を目指し、更なる発展を遂げるよう様々な戦略に基づく施策を展開します。

第3節 実施期間

2018年 4月 1日 から

2021年 3月31日 までとします。

※但し、実施期間中であっても必要に応じてプランの見直しを実施します。

第2章 加賀市の目指す姿について

第1節 現状

	2014年	2015年	2016年	2017年 (見込み)	2014-2017 対比
温泉地宿泊施設 宿泊客数	162.6 万人	185.0 万人	183.7 万人	175.2 万人	+12.6 万人
温泉地宿泊施設 日帰客数	16.6 万人	14.7 万人	15.5 万人	15.6 万人	-1.0 万人
計	179.2 万人	199.7 万人	199.2 万人	190.8 万人	+11.6 万人
北陸3県	54.5 万人	56.2 万人	61.4 万人	56.8 万人	+2.3 万人
関西圏	48.3 万人	46.3 万人	48.3 万人	49.2 万人	+0.9 万人
関東圏	11.4 万人	27.4 万人	26.1 万人	22.8 万人	+11.4 万人
中京圏	25.6 万人	22.5 万人	23.9 万人	22.2 万人	-3.4 万人
その他国内	34.9 万人	42.0 万人	33.3 万人	31.8 万人	-3.1 万人
海外	4.5 万人	5.3 万人	6.2 万人	8.0 万人	+3.5 万人
(うち台湾)	(3.3 万人)	(3.6 万人)	(4.0 万人)	(4.8 万人)	(+1.5 万人)
観光消費額	388.4 億円	443.3 億円	482.3 億円	463.1 億円	+74.7 億円
観光施設・関連機関利用者数	156.4 万人	158.0 万人	162.6 万人	159.3 万人	+2.9 万人
温泉観光地としての認知度	55.1%	55.7%	58.4%	60.4%	+5.3 ポイント
観光客の満足度 (大変満足した割合)	42.6%	36.2%	32.0%	37.6%	+4.8 ポイント
あこがれの温泉地 ランキング(対象:327 温泉)	17 位	18 位	17 位	17 位	—
もう一度行きたい温泉地 ランキング(対象:327 温泉)	21 位	22 位	21 位	21 位	—

※ 「入り込み客数」「観光消費額」は、2014 年度策定の観光戦略プランで示す計算方法にて算出

※ 「観光地としての認知度」「観光客の満足度」「あこがれの温泉地」「もう一度行きたい温泉地」は、じゃらんネットによるインターネットアンケート調査の結果

※ 日帰り観光施設来場者数の施設については P6 下段に記載する施設を対象として算出

※ 日帰り観光施設来場者数における一部の施設は、見込み数値にて算出

【温泉地宿泊施設 入り込み客数】

- ① 宿泊客は、2015 年 3 月の北陸新幹線金沢開業後 1 年目は大きく増加しましたが、2 年目、3 年目と微減傾向が続いています。
- ② 日帰り客は、2014 年以前から減少傾向にありましたが、北陸新幹線金沢開業直後は近隣地域へ分散された影響もあり大きく減少しましたが、その後は微増が続いています。
- ③ 地域別では、首都圏からの来訪客が、北陸新幹線効果により 2015 年が対前年比 2.4 倍と大きく増加しましたが、その後は減少傾向が続いています。
- ④ 主要市場である関西圏や中京圏からの来訪客は、首都圏の北陸新幹線ブームの影響を受け、2015 年は大きく減少しましたが、その後は、回復傾向にあります。
- ⑤ 関西圏からの来訪客は堅調に増加しており、北陸新幹線金沢開業前と比較しても増加しています。
- ⑥ 台湾を中心に海外からの来訪客は大幅増加が続いており、2017 年は過去最高となります。

【観光消費額】

- ① 2014 年度に策定した観光戦略プランに基づき、「1泊2日3湯4食」をテーマとした、地域の回遊性を高め観光消費を増加させる施策を展開したことで、観光消費額は大きく増加しました。
- ② 北陸新幹線金沢開業による北陸地域全体での宿泊単価の上昇も要因の1つと考えられます。
- ③ 2016年は、観光入り込み客数が減少したにも関わらず、消費単価が増額したことにより、観光消費額は増加しました。
- ④ 2017年は、宿泊客数の減少に伴い、観光消費額は対前年比で減少しています。

【日帰り観光施設来場者数】

- ① 観光消費を高めるための回遊性向上に向けた事業を展開することにより、施設全体の来場者数は増加しています。
- ② ただし、公共の文化展観施設においては、全体的に減少傾向にあります。
- ③ 2017年は、観光客数の減少に伴い、来場者数は対前年比で減少しています。

【温泉観光地としての認知度】

- ① 2014 年度に策定した観光戦略プランに基づき、首都圏を中心とした観光プロモーションを展開したことにより、加賀温泉郷を「よく知っている」「かなり知っている」人の割合は60%以上となり、3年間で約5ポイント増加しました。

【観光客の満足度】

- ① 2014 年度に策定した観光戦略プランに基づき、地域の観光資源を磨き上げながら、市内三温泉の個性を生かした温泉観光地としての魅力づくりを推進したことにより、加賀温泉郷を訪れた人の40%以上が大変満足したと感じており、その割合は3年間で約5ポイント増加しました。

【あこがれの温泉地ランキング】

【もう一度行きたい温泉地ランキング】

- ① 温泉地の人気バロメーターとなる「あこがれ度」や「再来訪意向」は、全国温泉地の上位10%に入る評価を受けています。
- ② 「温泉観光地としての認知度」や「観光客の満足度」が向上しながらも、温泉地としての人気は3年前から現状維持の状況です。
- ③ 北陸新幹線金沢開業により来訪客が大幅に増加しながらも、宿泊施設の人手不足等によって十分なおもてなしサービスを提供できなかった影響もあり、2015年には温泉地の人気が一時的に下がりましたが、新幹線ブームの落ち着きとともに順位は回復いたしました。
- ④ 「あこがれ度」よりも「再来訪意向」の順位が低いことから、期待度に対しての満足度が低い状況と言えます。
これまで、温泉地のブランド力を磨き上げてきましたが、これに見合うおもてなしサービスができていないという評価がされていると言えます。

第2節 課題

前節において示した加賀市の現状を踏まえ、今後に向けた課題を整理します。

課題1 観光入込客数を増加させる。

- ① 北陸新幹線金沢開業後に大きく増加しながらも、その後は減少傾向となっている観光入込客数を再度増加させるため、誘客施策を強化する必要があります。
- ② 特に減少傾向が著しい首都圏からの誘客強化が必要とされます。
一方で、加賀温泉郷にとって大きな市場である関西圏からの来訪客が増加傾向にあり、今後も継続増加させるような取り組みが必要とされます。
- ③ 北陸三県からの来訪客が大きなシェアを占めており、近隣地域に向けての誘客施策においても更なる強化が必要です。
- ④ 海外からの来訪客が年々大きく増加しており、今後も更なる増加を目指した取り組みが必要です。主要な市場である台湾を中心としたアジア圏に加え、欧米諸国などからの誘客強化も促進する必要があります。

課題2 観光消費額を増加させる。

- ① 観光消費額を増加させるため、地域内の回遊性を高める効果的な施策展開が必要です。
- ② 観光客の消費単価を増額させるため、宿泊施設のサービス向上に加え、現地での食事や買い物の内容を充実させ、観光客の満足度を高める必要があります。

課題3 加賀温泉郷の認知度を高める。

加賀温泉郷の認知度は高まってきてはいるものの、よく知らないという人の割合は、まだ40%近くいます。殆どの人が加賀温泉郷のことをよく知っているという状況を目指し、地域の魅力をしっかりと伝える話題性の高い観光プロモーションを展開する必要があります。

課題4 観光客の満足度を高める。

- ① 加賀温泉郷は、来訪客にとって満足度の高い温泉観光地ですが、「特に」満足しているお客様の割合は40%程度です。100%の人がとても満足と感ぜられるようなサービス提供を目指す体制づくりが必要です。
- ② 温泉地ランキングにおいては、「全国有数」「北陸屈指」の温泉地と呼ばれ、「世界から選ばれる温泉共創地」を目指す上で、まだまだ人気順位を上げなければなりません。
そのための魅力づくりやサービス向上を図る必要があります。
- ③ 「あこがれ度」よりも「もう一度行きたい意向」の順位が低い状況は、イメージ以上のサービスが出来ていないと言えます。
もう一度行きたくなるような温泉観光地を目指した取り組みが必要です。

第3節 数値目標

■市内宿泊施設 入込客数（市内全域）

	2017年見込み	2018年目標	2019年目標	2020年目標
宿泊 (前年比)	181.0万人 — —	187.0万人 +6.0万人 103.3%	194.5万人 +7.5万人 104.0%	201.0万人 +6.5万人 103.3%
日帰り (前年比)	17.2万人 — —	18.0万人 +0.8万人 104.7%	18.5万人 +0.5万人 102.8%	19.0万人 +0.5万人 102.7%
計 (前年比)	198.2万人 — —	205.0万人 +6.8万人 103.4%	213.0万人 +8.0万人 103.9%	220.0万人 +7.0万人 103.3%
うち 外国人客数 (前年比)	8.2万人 — —	9.0万人 +0.8万人 109.8%	9.5万人 +0.5万人 105.6%	10.0万人 +0.5万人 105.3%

※ 市内宿泊施設は、温泉地を始めとする市内全域の施設を対象

※ 日帰り客についても、宿泊施設を利用した人を対象

■日帰り機関(文化・観光関連)利用者数 ※暫定

	2017年見込み	2018年目標	2019年目標	2020年目標
文化展観施設	13.6万人	14.0万人	14.5万人	14.9万人
観光スポット	69.1万人	71.4万人	73.3万人	75.4万人
三温泉総湯	20.9万人	21.6万人	22.3万人	23.0万人
観光交通機関	12.5万人	13.5万人	14.3万人	14.7万人
観光土産販売施設	37.0万人	38.6万人	39.5万人	40.7万人
観光案内所	5.7万人	5.9万人	6.1万人	6.3万人
計 (前年比)	158.8万人 — —	165.0万人 +6.2万人 103.9%	170.0万人 +5.0万人 103.0%	175.0万人 +5.0万人 102.9%

- **公共の文化展観施設**・・・石川県九谷焼美術館・深田久弥山の文化館・鴨池観察館・加賀市美術館・北前船の里資料館
中谷宇吉郎雪の科学館・九谷焼窯跡展示館・魯山人寓居跡いろは草庵・蘇梁館・芭蕉の館・竹の浦館・依緑園別邸
- **観光スポット**・・・ろくろの里・蔵六園・はづちを楽堂・山中座・日本折紙博物館・大日盛酒蔵資料館・長流亭・無限庵
全昌寺・実性院・法皇山横穴古墳群・芸妓検番・加賀フルーツランド・月うさぎの里・川床
片山津ゴルフ場・山代山中ゴルフ場・加賀セントラルゴルフ場・加賀カントリークラブ
山代ゴルフ倶楽部・片山津温泉屋形船・大聖寺川屋形船・県民の森・瀬越キャンプ場
- **三温泉総湯**・・・山代温泉総湯・古総湯・山中温泉菊の湯（第1・2）・片山津温泉総湯 ※定期利用・期間利用は除く
- **観光交通機関**・・・CANBUS・永平寺お出かけ号・ゆのさと特急
- **観光土産販売施設**・・・道の駅山中温泉・山中うるし座（山中漆器伝統産業会館）・御菓子城加賀藩・九谷満月
献上加賀棒茶丸八製茶場・加賀百撰街・JA加賀元気村（市外）
- **観光案内所**・・・KAGA旅まちネット・片山津温泉インフォメーションセンター・大聖寺観光案内所
※山代温泉・山中温泉の観光案内所は「山中座」「はづちを楽堂」等の利用者数に含める。

■観光消費額

	2017 年見込み	2018 年目標	2019 年目標	2020 年目標
宿泊客 消費単価	25,500 円	25,700 円	26,000 円	26,300 円
日帰り客 消費単価	10,500 円	10,750 円	11,000 円	11,200 円
観光消費額 計 (対前年比)	479.8 億円	502.5 億円 +22.7 億円	527.4 億円 +24.9 億円	550.0 億円 +22.6 億円

【算出方法】

目標に掲げる上記の観光消費額については、市内宿泊施設の利用者を対象とした観光消費額の積算額とする。

《**宿泊客**》 … 宿泊客消費単価×宿泊観光客数

■ 宿泊客消費単価＝市内宿泊施設の平均宿泊単価＋現地小遣い平均費用 の計

※ 平均宿泊単価については、インターネット旅行会社における加賀市宿泊者 1 人あたりの単価により算出

※ 現地小遣い平均費用については、インターネットによる宿泊旅行調査におけるの個人旅行の現地小遣い費用、市内観光施設における観光客アンケート調査で回答のあった現地小遣い費用の平均金額を基に算出

《**日帰り客**》 … 日帰り客消費単価×日帰り観光客数

■ 日帰り客消費単価＝石川県観光統計調査による日帰り観光平均消費額、市内観光施設における観光客アンケート調査で回答のあった現地小遣い費用の平均金額を基に算出

第4節 コンセプト

『世界から選ばれる温泉共創地』

～加賀ていねいをテーマとした地域観光の磨き上げ～

北陸新幹線金沢開業効果を継続させながら、2023年春に予定されている敦賀延伸を見据えた加賀温泉郷への誘客促進に向け、温泉観光都市としての共創環境の構築強化を推進します。

加賀市は、全国屈指の山代温泉・山中温泉・片山津温泉を有し、2017年4月に日本遺産に認定された北前船の歴史ストーリーが根付き、これに加え、大聖寺十万石の伝統文化、九谷焼や山中漆器に代表される伝統工芸、大日山系の山々や国定公園加賀海岸の美しい自然、豊かな土壌に育まれた美味しい食など、優れた資源に恵まれています。

本プランにおいては、前プランで掲げた「加賀ていねい」のコンセプトのもと、これらの温泉・歴史・伝統・文化・自然・食など、加賀市特有の魅力的な地域資源を更に磨き上げ、観光客へ提供できる新たな観光メニューの企画開発を進め、受入環境整備や情報発信などの施策を戦略的に展開することで、誘客促進を図ります。

国内に向けては、首都圏に加え関西圏を始めとする都市圏からの誘客を強化しながら、海外に向けては、台湾やシンガポールを始めとしたアジア圏に加え欧米諸国もターゲットとし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた誘客戦略を進めます。

本戦略においては、年間観光入込客数220万人、年間観光消費額550億円を目指すこととし、特にその中でも海外からの来訪客を大きく増加させ年間10万人を目標とし、加賀市を「世界から選ばれる温泉共創地」へと発展させます。

第3章 加賀市観光戦略プランの概要

第1節 加賀市観光戦略プラン概要図

2020年 達成目標

観光入込客数 220万人 観光消費額550億円

加賀市コンセプト

世界から選ばれる温泉共創地

～加賀ていねいをテーマとした地域観光の磨き上げ～

6戦略／26施策／67事業

戦略1 地域の魅力創出・向上

- 1 コンテンツ「泊まる」の磨き上げ(事業1~3)
- 2 コンテンツ「見る・遊ぶ」の磨き上げ(事業4~6)
- 3 コンテンツ「食べる・買う」の磨き上げ(事業7~9)
- 4 「温泉地」の魅力づくり(事業10~12)
- 5 「広域観光」の推進(事業13~14)
- 6 「地域交通」の充実(事業15~16)
- 7 町並み景観の向上(事業17~18)

【7施策／18事業】

戦略3 情報発信強化と営業促進

- 16 インターネットを活用した効果的な情報発信(事業38~40)
- 17 各種媒体による効果的な情報発信(事業41~42)
- 18 誘客に向けた営業強化(事業43~44)

【3施策／7事業】

戦略4 北陸新幹線加賀温泉駅開業への対策

- 19 「東京2023加賀」プロジェクトの展開(事業45~47)
- 20 駅及び周辺の機能の充実(事業48~51)

【2施策／7事業】

戦略2 自然・歴史・文化資源の観光活用

- 8 北前船の里「加賀橋立」の魅力向上(事業19~21)
- 9 「大聖寺十万石」歴史文化資源の有効活用(事業22~23)
- 10 山中温泉における自然・歴史資源の観光活用(事業24~25)
- 11 山代温泉における歴史資源の観光活用(事業26~27)
- 12 片山津温泉における自然資源の観光活用(事業28)
- 13 伝統文化の充実による魅力向上(事業29~32)
- 14 展観施設の利用促進(事業33~35)
- 15 自然資源の観光活用(事業36~37)

【8施策／19事業】

戦略5 インバウンド観光の推進

- 21 海外都市交流施策との連動(事業52~53)
- 22 海外誘客の促進に向けた事業展開(事業54~57)
- 23 広域連携による誘客推進(事業58~59)
- 24 受け入れ態勢の整備(事業60~63)

【4施策／12事業】

戦略6 観光推進機能の充実

- 25 加賀温泉郷DMOの運営強化(事業64~66)
- 26 観光推進に向けた財源確保(事業67)

【2施策／4事業】

第2節 戦略・施策・事業の概要

戦略1. 地域の魅力創出・向上

温泉、歴史、伝統、文化、自然、食などの資源を磨き上げ向上させながら、地域ブランディングによる観光メニューを企画開発し、新たな魅力創出を図ることで誘客を促進します。

「泊まる」「見る・遊ぶ」「食べる・買う」などのカテゴリーごとによる効果的な事業を展開しながら、「温泉地」の魅力を高めるとともに、周辺地域との連携による「広域観光」を推進し、観光客が訪れたくなる、訪れて楽しんでもらえる、魅力的な温泉観光地を目指します。

また、交通手段の充実を図りながら、町並み景観の向上や散策促進のきっかけとなる事業を展開し、これまでに提唱してきた「1泊2日3湯4食」の滞在型観光を充実させ、観光客にとって魅力ある滞在時間を提供することで、滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。

施策1 コンテンツ「泊まる」の磨き上げ

- 事業1. おもてなしサービスの向上
- 事業2. 宿泊受入態勢の充実
- 事業3. 魅力的な宿泊パッケージプランの企画開発

施策2 コンテンツ「見る・遊ぶ」の磨き上げ

- 事業4. 観光関連施設におけるサービス向上
- 事業5. 体験観光メニューの充実
- 事業6. 新たなコンテンツによる観光推進事業の展開

施策3 コンテンツ「食べる・買う」の磨き上げ

- 事業7. ご当地グルメの充実と新規メニューの企画開発
- 事業8. 一次産業事業者と飲食・宿泊事業者との連携強化
- 事業9. 「加賀ていねい」ブランドによる魅力的な土産品の企画開発

施策4 「温泉地」の魅力づくり

- 事業10. 総湯を核にした温泉地滞在メニューの企画開発
- 事業11. 温泉地の個性を生かした魅力づくり
- 事業12. 湯めぐり・まち巡りメニューの充実

施策5 「広域観光」の推進

- 事業13. 金沢や南加賀地域との連携による観光ルートの確立
- 事業14. 越前地域との県境連携による観光ルートの確立

施策6 「地域交通」の充実

- 事業15. 加賀温泉郷周遊観光促進に向けた交通サービスの充実
- 事業16. 周辺地域との交通アクセスの充実

施策7 町並み景観の向上

- 事業17. 廃業旅館などの廃屋対策の検討
- 事業18. ガーデンシティ構想の推進

戦略 2. 自然・歴史・文化資源の観光活用

自然・歴史・伝統文化などにおける優れた地域資源を有効に活用し、来訪客が魅力を感じられる文化観光都市を目指します。

そのため、資源の魅力をできる限り磨き上げ、新たな付加価値を生み出しながら、ストーリー性を持たせることで、観光商品化を図ります。また、その魅力を国内外へ積極的に発信し、知名度・認知度・満足度を高めながら観光誘客に繋がります。

施策 8 北前船の里「加賀橋立」の魅力向上

- 事業 19. 北前船の里「加賀橋立」の再生整備
- 事業 20. 北前船の里「加賀橋立」を活用した観光メニューの充実
- 事業 21. 広域連携による日本遺産関連事業の推進

施策 9 「大聖寺十万石」歴史文化資源の有効活用

- 事業 22. 大聖寺の魅力向上に向けた再生整備
- 事業 23. 大聖寺の魅力向上による町並み散策の推進

施策 10 山中温泉における自然・歴史資源の観光活用

- 事業 24. 温泉情緒と鶴仙溪の自然を活かした散策ネットワークづくり
- 事業 25. 「旧よしのや依緑園別荘」観光活用の推進

施策 11 山代温泉における歴史資源の観光活用

- 事業 26. 「湯の曲輪」の温泉文化を活用した賑わいづくり
- 事業 27. 「あいうえおの郷構想」の展開

施策 12 片山津温泉における自然・歴史資源の観光活用

- 事業 28. 「柴山瀉遊歩」自然と歴史を活かしたまちづくりの推進

施策 13 伝統文化の充実による魅力向上

- 事業 29. 山中節の振興と芸妓文化の継承
- 事業 30. 松尾芭蕉「おくのほそ道」の観光活用
- 事業 31. 伝統工芸「山中漆器」活用事業の推進
- 事業 32. 伝統工芸「九谷焼」活用事業の推進

施策 14 展観施設の利用促進

- 事業 33. 観光メニューの企画開発
- 事業 34. 利用者へのサービスの充実
- 事業 35. 旅行商品とのタイアップ化の推進

施策 15 自然資源の観光活用

- 事業 36. 山村集落「加賀東谷」の魅力向上
- 事業 37. 「加賀海岸」の魅力向上

戦略3. 情報発信強化と営業促進

北陸新幹線金沢開業効果が落ち着きを見せ始めていることを踏まえ、首都圏からの誘客に加え、メイン市場である関西圏へのプロモーションをあらためて見直し、戦略的な誘客施策を展開します。更に中京圏を始めとする各都市圏や近隣からの来訪客を増加させる効果的な取り組みも進めます。

地域、年代、旅行形態などの種別ごとにターゲティングをしっかりと行い、トレンドに応じた効果的な情報発信を展開します。インターネットによるSNSなどを活用しながら、時代のニーズに応じた情報発信施策を展開し、話題性が高まる加賀市独自の事業を進めます。都市圏に向けては、旅行会社や交通事業者、メディアに対して、官民が一体となったセールス活動を充実させ、加賀温泉郷への誘客促進を図ります。

施策16 インターネットを活用した効果的な情報発信

- 事業38. 観光情報サイト「KAGA旅・まちネット」の充実
- 事業39. インターネット旅行サイトを活用した情報発信強化
- 事業40. SNS（ソーシャルネットワークサービス）による効果的な情報発信

施策17 各種媒体による効果的な情報発信

- 事業41. 各種メディア（テレビ・ラジオ・雑誌・新聞等）による情報発信
- 事業42. 特命大使による情報発信

施策18 誘客に向けた営業強化

- 事業43. 都市圏へのトップセールスなど観光PR活動の強化
- 事業44. 旅行会社やメディアへの積極的なアプローチ

戦略4. 北陸新幹線加賀温泉駅開業への対策

2023年春に予定されている北陸新幹線敦賀延伸において、速達性の高い「かがやき」を始めとした全便が加賀温泉駅に停車することは、加賀市への誘客にとって非常に大きな効果がもたらされると推測されます。

そのため、全便停車に向けた全市を挙げた市民活動を展開し、その熱意を全国に発信するプロモーション施策を展開します。

加賀温泉郷の玄関口として相応しいサービス提供に向け、駅利用者の満足度を高めるためのインフォメーション機能の充実や、駅及び駅周辺の利便性向上に向けた施策を進めます。

施策19 「東京2023加賀」プロジェクトの展開

- 事業45. 北陸新幹線加賀温泉駅開業に向けた話題性づくり
- 事業46. 市民意識の醸成に向けた啓発活動の展開
- 事業47. 広域連携による敦賀延伸プロモーションの展開

施策20 駅及び周辺の機能の充実

- 事業48. 温泉観光地の玄関口に相応しいデザイン景観の形成
- 事業49. 観光インフォメーション機能の充実
- 事業50. 利便性の高い交通機関利用場所や駐車場の整備
- 事業51. 観光商業施設の確保と動線の整備

戦略5. インバウンド観光の推進

台湾やシンガポールなどとの交流を更に積極的に進め、関係をより深化させるよう継続的なアプローチを行うとともに、欧米など新たな海外都市との交流を推進します。

日本への外国人観光客の大幅増加を踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした加賀温泉郷のブランド強化に向けたPRを戦略的に展開し誘客促進を図ります。

越前エリアの広域圏や金沢・高山・白川郷等の近隣周辺地域との連携・連動戦略の具現化などで、インバウンド客の入込増加対策を強化します。

また、来訪いただいた外国人の利便性の向上、満足度の向上を実現するため、受け入れ態勢の整備・強化について効果的な施策を進めます。

施策21 海外都市交流施策との連動

事業52. 海外都市との友好・交流関係の継続

事業53. 新たな海外都市との交流推進

施策22 海外誘客の促進に向けた事業展開

事業54. 加賀温泉郷が一体となった情報発信

事業55. 戦略的な海外プロモーションの展開

事業56. 加賀温泉郷ポータル宿泊サイトの構築

事業57. 体験型観光の充実

施策23 広域連携による誘客推進

事業58. 越前加賀インバウンド推進機構との連携

事業59. 北陸・中部圏地域の観光資源の有効活用

施策24 受け入れ態勢の整備

事業60. 外国人対応人材の育成

事業61. 通信環境の向上

事業62. サイン等による案内の充実

事業63. クレジット決済システム導入等の環境整備への支援

戦略6. 観光推進機能の充実

宿泊客に対し充実した観光サービスを提供するために必要な財源確保のため、「宿泊税」等の目的税の導入について検討を進めます。

今後における地域観光の推進においては、「地域経営」という考え方のもと、マーケティングやマネジメント能力が求められ、日本版DMOとなる組織が必要となります。そのため、加賀市の様々な産業を包括し官民が一体となった地域運営を行う「一般社団法人加賀市観光交流機構」を加賀温泉郷DMOとして位置づけ運営体制の強化を図ります。

※ DMO(Destination Marketing/ Management Organization)とは、マーケティング&プロモーションやブランディング、品質管理・安全管理・資源管理等、観光地の維持・成長に向けたマネジメントを担う一連の組織を指します。

施策25 加賀温泉郷DMOの運営強化

事業64. 地域観光における経営機能の充実と観光人材の育成強化

事業65. 観光実態の調査・分析による課題改善

事業66. 加賀温泉郷経営塾による観光業界の経営改革

施策26 観光推進に向けた財源確保

事業67. 「宿泊税」導入等の検討

第3節 戦略推進に向けた関係者の役割

1. 市民の役割

現在、消滅可能性都市である現状を意識し、地域づくりの主役として魅力的な地域をつくることを心がけ、一人ひとりが自分のお客様として来訪者をお迎えすることが求められます。また、街をよく知り、誇りを持ち、積極的な魅力発信に努めます。

2. 観光事業者の役割

来訪者を迎え入れ、満足していただくために、加賀市の魅力を最大限提供し、長期的な地域視点での取り組みも行います。なお、観光事業者とは、観光施設の管理者・宿泊事業者や飲食店・おみやげ店、交通事業者など観光に関わりのある事業者を表します。

3. 観光関連団体の役割

加賀市観光交流機構・各観光協会を始めとする観光関連団体は、観光事業者を取りまとめ、行政との施策の調整を行いながら、加賀市の魅力を来訪者にわかりやすく伝え、加賀市に来訪するきっかけをつくる役割を担います。

4. 行政の役割

俯瞰した、客観的な視点で観光戦略の方向性を示し、主導します。また、観光事業者などが実施する誘客促進の支援や、来訪者を迎えるための公共インフラの整備などを行います。更に、市民に対し、来訪者が地域経済を支えている重要性を理解してもらうこともその役割に含まれます。

第4章 展開する事業の詳細

第1節 戦略1：地域の魅力創出・向上

施策 1 コンテンツ「泊まる」の磨き上げ 経済

事業 1

事業名	おもてなしサービスの向上				
現 状	<p>宿泊施設における接客・サービスは、宿泊客の満足度に大きな影響を与える要素ですが、全国の人気温泉地と比較し加賀温泉郷は特に優れているとは言えない状況です。（じゃらんnet クチコミデータ結果より）</p> <p>特に、宿泊業界における人手不足が深刻な状況となっており、サービス低下に影響を及ぼしています。</p> <p>今後に向けては、おもてなし向上のための取り組み強化が重要となっており、これに加え海外からの来訪客を増加させる中での外国人に対するサービスの充実も必要になってきています。</p>				
事業内容 と目的	<p>宿泊施設の従業員を対象とした加賀温泉郷全体での研修会を開催し、地域全体のおもてなしサービスを向上させます。</p> <p>現在求められている、「おもてなし」とはどのようなものなのか。外国人の方に満足していただけるサービスはどのようなものなのか、宿泊事業者の方に考えていただける機会を提供します。</p> <p>また、I o T（Internet of Things）を活用することで業務の合理化を図りながら新たなサービスモデルを構築することを検討します。人的なおもてなしに加え、提供するモノやサービスを合理的に管理し、価格や利便性の面において宿泊客の方に満足していただけるサービスを提供します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>研修会実施計画の企画立案</p> <p>研修会の実施→次年度以降継続</p> <p>I o T導入計画の企画立案</p> <p>I o T導入（実証試行→本格導入）</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 （事業拡充・新規事業の展開）</p>				

事業 2

事業名	宿泊受入態勢の充実				
現 状	<p>温泉観光地に対する宿泊者の目的やニーズは多様化しています。</p> <p>加賀温泉郷においては、個人旅行から団体旅行まで、観光需要が移り行く中で、その対応をしていますが、一人旅、家族旅行、グループ旅行、合宿や修学旅行などの教育旅行、M I C Eなどの目的ごとにきめ細やかな対応が求められ、泊食分離などの受け入れを考える必要も生じています。</p> <p>そのような中、宿泊業界における人手不足が深刻化しており、十分な受け入れが出来ない状況となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>既存ニーズに対する満足度の向上と新たなニーズへの対応に向けた取り組みを早急に進め、シングルユース対応や泊食分離の提供など、まだ十分な受け入れが出来ていない需要への対策を進めます。</p> <p>合宿受入では、文化・スポーツ合宿などに伴う施設利用の受入制度を充実させます。これまで殆ど受け入れが出来なかった修学旅行についても教育的なニーズに適した受入対応を積極的に進めます。</p> <p>2017年度に発足した「加賀温泉郷経営塾」において、宿泊業界全体による働き方改革による就労イメージの向上を図りながら新たな雇用創出に向けた採用強化を促進する「KAGAルートプロジェクト」を官民一体のもと展開し、宿泊事業者における人手不足を解消しながら宿泊受け入れ態勢を充実させます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>受入態勢の充実に向けた検討</p> <p>受入態勢の充実→次年度以降継続</p> <p>新たな宿泊需要への対策</p> <p>加賀温泉郷経営塾「KAGAルート事業」の展開</p> <p>自立・自走</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開（事業拡充・新規事業の展開）</p>				

事業 3

事業名	魅力的な宿泊パッケージプランの企画開発				
現 状	<p>来訪客の宿泊施設に対するニーズは多様化し、求められる質も高まっています。これまでの部屋・風呂・食事などに加え、滞在中にどのような過ごし方ができるかも重要な要素となっています。</p> <p>施設の館内での楽しませ方、温泉街でのそぞろ歩きや特別感のある体験メニューなど、宿泊客に感動を与えるエッセンスが必要です。</p> <p>それらのサービスを、お得感を感じさせながら提供することで、宿泊客の満足度を向上させ、温泉地としての人気度を高めていく必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光スポットにおける「特別鑑賞」「体験観光」「湯めぐりキャンペーン」「3次交通利用」「ランチメニュー」「食べ歩き」「土産品」「イベント」など、地域の魅力を磨き上げながら、そのサービスを宿泊と併せて提供する新たなパッケージプランを企画開発します。</p> <p>プランは、割引や特典などのサービスを付加することで、宿泊客にとってお得感のある魅力的な商品として売り出します。</p> <p>旅行会社や観光メディア機関とのタイアップにより、それぞれの旅行商品の中でパッケージングさせることで、効果的に販売促進を図ります。</p> <p>加賀温泉郷では、お得で、楽しい、何らかの宿泊キャンペーンが、年間を通じて展開されているとイメージされるような温泉観光地を目指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>パッケージプランの企画開発</p> <p>パッケージプランの販売促進→次年度以降継続</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開（事業拡充・新規事業の展開）</p>				

施策 2 コンテンツ「見る・遊ぶ」の磨き上げ

事業 4

事業名	観光関連施設におけるサービス向上				
現 状	<p>宿泊施設のおもてなしサービスと同様に、観光スポットにおけるサービスは、来訪客の満足度に大きな影響を与えます。</p> <p>現状においては、観光スポットにおける来場者の声などは個々の事業者ごとに把握され、サービスなども個々の営業努力の範囲で行われています。</p> <p>それぞれが抱える問題点やお客様のニーズへの対応は、地域全体においても考えるべき課題であるにも関わらず共有がされていない現状です。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光スポットの管理者間において、現状の課題などを共有しながら、来場者へのおもてなしやサービス向上を図るための、会議・研修会・勉強会を定期的 に実施します。</p> <p>ボランティアガイドの活動を活性化し、観光スポットとの連携を強化しながら、来場者に満足していただけるガイド体制を構築します。</p> <p>観光スポットにおけるサービス向上に向けた施設の改修や修繕に対する支援制度の導入を検討します。</p> <p>観光スポットにおける I o T (Internet・of・Things) 導入によるサービスの充実化についての検討を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構 (加賀温泉郷DMO) ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀市内観光施設管理者 ・加賀市内ボランティアガイド組織 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>観光関連事業者の連携強化</p> <p>会議・勉強会・研修会の実施</p> <p>課題・来場者ニーズの調査</p> <p>ボランティアガイド活動の活性化</p> <p>施設改修・修繕への支援制度の検討</p> <p>I o T 導入計画の検討</p> <p>2018 年度検討事業の実践 各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 5

事業名	体験観光メニューの充実				
現 状	<p>加賀市は温泉地を中心とした宿泊滞在型観光地です。これまでの体験観光は通過型滞在観光地における提供が主流とされてきましたが、近年では宿泊先の地域での提供の必要性も高まっています。</p> <p>観光ニーズは、「見る」から「体験」へ、そして「交流」も求められるように変わりつつある中で、観光客にとって満足度の高い体験メニューが求められています。</p> <p>加賀市は、歴史・伝統文化・自然、食、など、魅力的な資源を数多く有していますが、体験観光メニューがマンネリ化しており、新たなメニューを企画開発する必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>「加賀市ならではの」のモノやコト、ヒトに出会い体験する特別感のある体験観光メニューを企画開発します。</p> <p>通年提供、季節限定、特別限定キャンペーンなど、量（数）や質にもこだわりを持たせ、様々なニーズに対応します。</p> <p>宿泊事業者や交通機関と連携しながら、実施する時間や場所、移手段などにも配慮し、来訪者が利用しやすい利便性の高いメニュー内容とします。</p> <p>全国の人気体験観光メニューも参考にし、来訪客や旅行会社へのアンケート調査なども実施しながら、メニューの改善や新規メニューの開発を進め、充実化を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内各団体 / 各事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>→ 体験観光メニューの企画検討 (2017年度)</p> <p>→ 体験観光の実施 (2018年度)</p> <p>→ 実施結果検証・新規メニュー検討 (2018年度)</p> <p>→ 先進優良事例の調査 (2018年度)</p> <p>→ 新メニュー実践 (2018年度)</p> <p>→ 各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開) (2018年度)</p>				

事業 6

事業名	新たなコンテンツによる観光推進事業の展開				
現 状	<p>加賀市は、歴史・伝統文化・自然、食、など、魅力的な資源を観光活用していますが、新たなコンテンツの開発に関しては、北陸新幹線金沢開業を契機にご当地グルメの開発や湯めぐりまち巡り事業などを展開してきましたが、まだ十分とは言えない状況です。</p> <p>イベントに関しても、伝統祭事が観光誘客に十分に繋がっているとは言えず、近年は、加賀温泉郷フェス、加賀温泉郷マラソン、温泉ライダーin加賀温泉郷、越前加賀県境綱引き、加賀ブッチャーズフェスなどが開催されていますが、これらの事業に観光的な付加価値を付して、いかに誘客に繋げていくかが課題となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀市ならではの歴史・伝統文化・自然、食なども重要ですが、これだけにはとどまらず、国内外のトレンドに応じた新しいコンテンツも取り入れたキャンペーンやイベントを展開します。例えば、アニメ、ゲーム、アイドル、グルメ、Instagram 等、その時々をの流行を読み取り、加賀温泉郷のオリジナルコンテンツとしての観光商品化を進めます。</p> <p>これまで実施されてきた伝統祭事に、参加交流するような要素や若者向けの新しいストーリーを盛り込み、観光イベント性を高めます。</p> <p>若者の企画による新たな賑いイベントや魅力的なキャンペーンの展開に向けた検討を進め、加賀温泉郷の話題性を高めながら誘客促進に繋がります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀市内各団体 / 各事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>新たなコンテンツによる商品の企画開発</p> <p>商品の販売促進</p> <p>既存イベントの魅力向上</p> <p>新規イベントの検討</p> <p>新規イベントの企画実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 3 コンテンツ「食べる・買う」の磨き上げ

事業 7

事業名	ご当地グルメの充実と新規メニューの企画開発				
現 状	<p>2014 年度に策定した観光戦略プランにおいて1泊2日3湯4食による来訪客の滞在時間の延長を目指す中、「食」に関しては、「加賀カニごはん」「加賀パフェ」を企画開発し、いずれも年間1万食以上を提供する人気メニューとなっています。第3弾として企画開発したご当地グルメ土産品「加賀乃酒」は限定500組を即日完売いたしました。</p> <p>ご当地ならではの「食」は、観光客にとって大きな魅力となることから、メニューの更なる充実や新たなメニューの開発、提供機会の拡大を図るべきと考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>既存のご当地グルメにおいては、1年に1度、メニューをリニューアルすることで、内容を充実させながら話題性を高め、更に新たなメニューの企画開発についても検討を進めます。</p> <p>グルメの提供は、イートインのみならず、お持ち帰りや食べ歩きを想定した観光客にとって魅力的なメニューを新たに企画開発します。</p> <p>宿泊客の夕食や朝食は、宿泊事業者により提供されていますが、そのメニューについても、宿泊事業者と連携しながら共通の食材や料理方法による加賀温泉郷お奨めの一品グルメなどの企画開発を検討します。泊食分離のニーズへの対応も踏まえながら、市内飲食店での夕食や朝食メニューも同様に企画開発を進めます。</p> <p>観光客にとって魅力ある「食メニュー」の充実を図ることで、誘客を促進しながら、滞在時間の延長と観光消費額の増加を目指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀市内飲食店 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>既存ご当地グルメのリニューアル（年1回）</p> <p>新たなご当地グルメの企画開発</p> <p>新たなご当地グルメの販売促進</p> <p>夕食・朝食メニューの検討</p> <p>夕食・朝食メニューの提供促進</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 （事業拡充・新規事業の展開）</p>				

事業 8

事業名	一次産業事業者と飲食・宿泊事業者との連携強化				
現 状	<p>加賀市においては、ズワイガニや甘エビを始めとする橋立港産の魚介類、ブロッコリーや味平かぼちゃなどの加賀九谷野菜、ブドウや梨などの果物、米、お茶、地酒など、魅力的な食材が数多くあります。</p> <p>飲食施設や宿泊施設においては、市内一次産業生産販売事業者との協力連携は事業者ごとに行われており、地域産業全体での連携体制は確立させておらず、地産地消に拘った食事メニューが地域全体として十分に提供されているとは言えない状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>飲食事業者や宿泊事業者の料理人が、一次産業の生産者や農業・漁業関係団体と意見交換や交流を行える機会を設け、連携強化を図ることで、地産地消の食メニューの提供を促進します。</p> <p>地産地消の意識を地域全体で高め、いつでも、どこでも、加賀市の美味しい旬の食材が提供される地域づくりを推進します。</p> <p>旬の食材は何かをしっかりと発信しながら、その食材を使ったどのような料理を、どの飲食店や宿泊施設で食べることができるのか、来訪対象者に伝えることで、地域全体の期待度・満足度を高め、誘客促進を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部（農林水産課） ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内 各宿泊事業者 / 各飲食事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>一次産業事業者と飲食・宿泊事業者による連携強化</p> <p>食材の流通体制の検討</p> <p>旬の地元食材を使った新たなメニューの提供</p> <p>食事情報の発信メニューの提供</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 9

事業名	「加賀ていねい」ブランドによる魅力的な土産品の企画開発				
現 状	<p>観光客にとっての買い物は、現地での観光と同じくらい楽しみにしている要素であり、旅行を終え帰ってからの満足度にも大きな影響を与え、今後のリピート効果にも繋がる重要なファクターと言えます。</p> <p>加賀温泉郷の土産品については、九谷焼や山中漆器を始め、お菓子、お茶、地酒など多種多様にありますが、話題性に富んだ新しい商品は非常に少ない状況です。</p> <p>今後は、加賀市らしさを出しつつ、目新しく話題性の高い土産品の企画開発が必要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>既存の土産品においては、商品のバリエーションを増やすなど、その魅力を更に高めながらイメージアップを図ります。</p> <p>農産品や水産加工品などの六次産業化を促進し、定番商品のほかにも新たな商品の企画開発を進め、話題性を高めながら、加賀温泉郷の新ご当地土産品としてブランド力を強化します。</p> <p>商品そのものの魅力向上に加え、おしゃれな包装やラッピングなど、誰かにプレゼントしたくなるような工夫についての取り組みを進めます。</p> <p>外国人観光客の増加を見据え、クールジャパンとして日本の伝統文化を感じさせる土産品開発を進めます。</p> <p>「加賀ていねい」商品として、市民や観光客など誰もが認める加賀温泉郷のお勧めの土産品として、ブランド力を高めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部（商工振興課） ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀特産品協同組合 ・加賀九谷陶磁器協同組合 / 山中漆器連合協同組合 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内土産品製造事業者 / 土産店 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>魅力的な土産品の企画開発</p> <p>企画開発商品の販路の確立</p> <p>加賀ていねい商品の認定制度化</p> <p>加賀ていねいブランドの情報発信強化</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 4 「温泉地」の魅力づくり

事業 10

事業名	総湯を核にした温泉地滞在メニューの企画開発				
現 状	<p>山代、山中、片山津の三温泉地には、温泉地のシンボルともいえる「総湯」があり、近年では、旅行会社や交通事業者とのタイアップ商品や若者限定「タダ湯めぐり」などの事業を展開していますが、十分に観光活用されているとはまだまだ言えない状況と言えます。</p> <p>「総湯※」の利用は、温泉地それぞれの本質を感じることでできる貴重な手段であることを浸透させながら観光客の利用促進を図ることで、温泉地の回遊性を高め、滞在時間延長と観光消費の増加を図るべきと考えられます。</p> <p>※総湯＝山代温泉古総湯を含みます。</p>				
事業内容 と目的	<p>「総湯」の泉質や効能、入浴方法など、伝えるべきコンセプトを明確化し、温泉旅館の浴場とは異なる魅力を感じさせながら、温泉本来の「湯治」文化を体感できる施設としての活用を図るとともに、周辺の商店街と連携しながら、「総湯」を中心に温泉街の散策を楽しめる魅力的な商品の企画を進めます。</p> <p>具体的には「総湯」への来場を促すため、宿泊とのセットプランや、日帰り客に対してもランチやスイーツ、食べ歩きや周辺観光などをセットにした企画商品を開発します。</p> <p>また、総湯の魅力の一つに地元住民との交流が挙げられますが、IoT活用も視野に入れた市民の利用向上策として、三温泉共通利用の受け入れ態勢を整え、観光客と市民の交流の場づくりを促進します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・総湯 施設管理者 ・温泉地 商店街 / 総湯周辺施設 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>総湯を活用した企画商品の開発</p> <p>企画商品の販売促進</p> <p>市民向け共通利用受入態勢の検討</p> <p>共通利用サービスの提供</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 11

事業名	温泉地の個性を生かした魅力づくり				
現 状	<p>加賀市内の三温泉地においては、北陸新幹線金沢開業を契機とした更なる誘客促進に向け、温泉地の魅力づくりを強化しておりますが、大きな変革がされているとは言えない状況です。</p> <p>観光客は目新しいものや特別感があるものを求められる中、そのニーズに対し、いかに応えることができるかが大きな課題となっています。</p> <p>2023年春の北陸新幹線延伸を見据え、しっかりとした加賀温泉郷ブランドを確立して行かねばなりません。</p>				
事業内容 と目的	<p>三温泉地における既存事業を更に充実させつつ新たな取り組みを積極的に進め、それぞれの個性を活かしながら連携強化を図ることで、加賀温泉郷のブランド化を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山代温泉 … 総湯・古総湯を核とした“湯の曲輪”を中心に、明治大正時代の温泉情緒が楽しめる温泉街の魅力づくり 【新規】「あいうえおの郷構想」(施策11 事業27) ●山中温泉 … “鶴仙溪”“ゆげ街道”の散策や“山中節”を始めとする伝統文化が楽しめる温泉街の魅力づくり 【新規】「旧よしのや依緑園別荘」の観光活用(施策10 事業25) ●片山津温泉… 柴山瀉の“湖畔・湖上”と温泉街を繋ぎ、一体的に町歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり 【新規】「柴山瀉遊歩」自然と歴史を活かしたまちづくり(施策12 事業28) 				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構 (加賀温泉郷DMO) ・加賀市内三温泉 観光協会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

事業 12

事業名	湯めぐり・まち巡りメニューの充実				
現 状	<p>2014年度に策定した観光戦略プランにおいて、1泊2日3湯4食による来訪客の滞在時間の延長を目指す中、「湯」に関しては、若者限定「タダ湯めぐり」、EVレンタカーや電動アシスト付レンタサイクルなどで温泉地内や温泉地間を巡る「ECO乗りクーポン」、日帰り入浴情報を含む温泉地の魅力に特化した情報を掲載する「じゃらん温泉本」の発行などの取り組みを進めておりますが、「湯めぐり」が十分に定着しているとは言えない状況です。</p> <p>今後は、「湯めぐり・まち巡り」が楽しめる温泉観光地というイメージを浸透させ、周遊回遊メニューを充実させていく必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>総湯や古総湯の魅力を高め利用促進を図るとともに、宿泊施設の日帰り入浴が利用しやすい環境づくりや温泉街の商店街でのサービス特典を付加する等、新たな取り組みを進め、来訪客にとって満足度の高いメニューを企画します。</p> <p>移動手段については、交通機関との連携を図りながら、自転車を使ったサイクリングメニューを企画するなど、利便性の高めながら内容を充実させます。</p> <p>スマートフォンやタブレットによるインフォメーション機能や特典サービスなどを付加する等の新たな取り組みを進め、IoTを活用した情報管理や動態調査も行いながら、回遊性の向上を図ります。</p> <p>施策3、施策4で掲げる事業とも連携しながら、まち巡りが楽しめる環境づくりを進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・総湯 施設管理者 ・温泉地 商店街 ・加賀市内交通事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

施策 5 「広域観光」の推進

事業 13

事業名	金沢や南加賀地域との連携による観光ルートの確立				
現 状	<p>加賀地域、南加賀地域の地域間連携による取り組みは、石川県主導のものを除いては、加賀地域連携推進会議（オール加賀会議）事業のみといえる状況で、広域周遊観光に関してはまだまだ途上段階にあります。</p> <p>北陸新幹線金沢開業により首都圏や沿線地域から金沢への観光客が爆発的に増加し、加賀温泉郷への来訪客も金沢とセットにした滞在が多い傾向にありながらも、金沢との連携による取り組みは殆どされていない状況です。</p> <p>2023年春の北陸新幹線延伸を踏まえる中で、加賀市が加賀地域の観光拠点として、積極的な広域連携事業を展開していく必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>金沢では、兼六園、金沢城址、東茶屋街、近江町市場などのメジャーなスポット、加賀地域では、開山1300年を迎えた白山の自然、辰口温泉、石川動物園、小松の石文化、義経や源平合戦ゆかりの名勝旧跡など、魅力的な観光資源を加賀温泉郷の宿泊客に提供できるメニューを企画開発します。</p> <p>併せて、加賀地域を代表する九谷茶碗まつり、お旅まつり、川北花火大会などのイベントも同様に活用するメニューづくりも進めます。</p> <p>加賀市内以外での宿泊者が、加賀温泉郷の日帰り観光を楽しめるメニューも併せて検討します。</p> <p>加賀地域における交通の拠点となる加賀温泉駅や小松空港を利用した新たな企画や2次交通の充実を図りながら、魅力的な旅行商品化を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀地域連携推進会議（オール加賀会議） / 加賀地域の自治体 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>新たな広域観光体制の検討</p> <p>新たな広域観光メニューの企画立案</p> <p>広域観光企画商品の販売促進</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 14

事業名	越前地域との県境連携による観光ルートの確立				
現 状	<p>石川県と福井県の県境には、福井県の主要観光スポットが数多くあります。現状においては、三温泉地と永平寺を結ぶ直行バスを運行させ好評を博しておりますが、石川福井の両県単位主導での連携以外では、越前加賀インバウンド推進機構の取り組みのみとなっております。</p> <p>上記で述べた県境の観光スポットは、金沢から越前加賀へと観光客を誘引することのできる加賀温泉郷にとって有効な資源であり、2023年春の北陸新幹線延伸を踏まえる中で、加賀市が越前加賀地域の観光拠点として、積極的な広域連携事業を展開していく必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>越前加賀インバウンド推進機構による海外誘客事業のみならず、国内観光客の誘客促進も視野に入れながら、東尋坊、永平寺、吉崎御坊、恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡、丸岡城など、身近にある魅力的な観光スポットを加賀温泉郷の宿泊客が楽しむことのできる観光ルートを確立させながら、新たな滞在観光メニューを企画開発します。</p> <p>特に、個人客の交通手段を充実させ利便性を高めることで、観光客にとって魅力的なルート化を進めます。</p> <p>2023年春の北陸新幹線延伸を視野に入れながら、加賀温泉郷を拠点に越前加賀の魅力を満喫できる旅行商品化を着実に進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・越前加賀インバウンド推進機構 ・福井県 県境の自治体 ・福井県 県境の観光団体 / 観光事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

施策 6 「地域交通」の充実

事業 15

事業名	加賀温泉郷周遊観光促進に向けた交通サービスの充実				
現 状	<p>地域周遊バス「CANBUS」は有効な観光交通手段ではありますが、ルートや運行本数などに課題を抱え、観光客が短時間で思い通りの自由な行動をする上での利便性が十分とは言い難く、利用者数は年々減少傾向にあります。</p> <p>近年は、「1泊2日3湯4食」による滞在観光を目指し、EVレンタカーや電動アシスト付レンタサイクルなどの新たなサービスを導入し、地域内の回遊性向上に向けた事業を展開していますが、観光客が十分に満足できる最適な内容とは言えない状況です。</p> <p>魅力的な観光スポットが分散する加賀市においては、地域内交通の充実が喫緊の課題となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>CANBUSの運行ルート、運行本数、乗車料金、サービス内容、販売体制などの改善について、運行事業者と検討を進めます。特に運行ルートに関しては、抜本的に見直すことで利便性を高めることを十分に検討します。</p> <p>また、市内のタクシー事業者と連携し、観光客の多様なニーズに応じた観光タクシーの導入を進めます。</p> <p>CANBUS、観光タクシー、EVレンタカー、通常レンタカー、電動アシスト付レンタサイクルをはじめとする自転車活用など、既存の交通サービスを充実させながら、観光客のニーズに応じた新たな交通手段の導入についての検討を進め、魅力的な観光交通商品づくりを進めます。</p> <p>2023年春に予定されている北陸新幹線の延伸を見据え、JR西日本との協力連携により、レール&地域観光交通をセットにしたプランを企画造成し、これに宿泊を加えた魅力的な旅行商品を開発し、誘客促進に繋げます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 総務部（企画課） ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・株式会社まちづくり加賀 ・加賀市内交通事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>交通事業者との協議</p> <p>既存交通サービスの充実</p> <p>新規交通サービスの企画実施</p> <p>新たな旅行商品の企画販売</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 16

事業名	周辺地域との交通アクセスの充実				
現 状	<p>加賀温泉郷と金沢を結ぶ高速直行バス「ゆのさと特急」や、加賀温泉郷と永平寺を結ぶ直行バス「永平寺おでかけ号」の魅力向上させながら利用促進を図り、周辺観光スポットとのアクセス強化を進めています。</p> <p>インバウンド観光の推進を踏まえ、広域での周遊観光を行う傾向にある訪日外国人のニーズに対応するため、加賀温泉郷と周辺地域を結ぶ新たな交通サービスの提供が求められます。</p>				
事業内容 と目的	<p>金沢や永平寺だけでなく、福井県側では東尋坊や恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡など、また少し遠方では、立山・黒部、五箇山、白川郷、飛騨高山など、加賀温泉郷の来訪客が立ち寄りたくなる魅力的なスポットが数多くあります。</p> <p>これらの地域との交通アクセスを充実させるため、バス運行の可能性についての検討を進めるとともに、「観光タクシー」に関しても地域内だけでなく広域観光ができる周遊ルート化を検討し、新たな交通サービスの提供を目指します。</p> <p>2023年春に予定されている北陸新幹線の延伸を見据え、JR西日本との協力連携により、広域での周遊観光ができる交通サービスと宿泊を合わせた魅力的な旅行商品を企画開発し、誘客促進に繋げます。</p> <p>新たな交通サービスの導入に向けては、人気観光列車のような乗車すること自体が楽しくなるようなサービスや特典などを企画し、期間限定のプレゼントキャンペーン、スマートフォンやタブレットによる新たなサービスの提供など、様々な事業展開の検討を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 総務部（企画課） ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀市内タクシー事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>既存交通サービスの魅力向上・利用促進</p> <p>新たな交通サービス導入の検討</p> <p>新たな交通サービスの試行</p> <p>新たな交通サービスの本格運行</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 7 町並み景観の向上

事業 17

事業名	廃業旅館などの廃屋対策の検討				
現 状	<p>加賀市内には、温泉旅館や大型レジャー施設等が廃業された後、放置されたままの状態での廃屋として残っており、住民の安心安全の問題に加え、観光都市としての景観を著しく損なっている状況です。</p> <p>近年は、一部の廃業旅館の公共事業での活用や民間事業者による再利用などを進めています。また、数多くの廃屋施設が残っている状況です。</p> <p>今後、国際観光都市として更なる観光誘客の促進を図る上で、町並み景観を著しく阻害している廃業旅館への対策が必要となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀市の公共事業において、費用対効果を踏まえながら有効に利活用できる方法等についての検討を進めます。</p> <p>放置されている大規模な廃屋に関しては、権利関係を調査しながら、新たに再利用できる民間事業者の誘致活動を進めます。</p> <p>地域の活性化に供する再生の可能性についての調査分析を行いながら、国の制度などを活用した支援方法についての検討を進めます。</p> <p>また、一般の住宅については、空き家調査を踏まえ、解体の代執行も見据えた取り組みを進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部(環境政策課) / 建設部(建築課) ・一般社団法人 加賀市観光交流機構(加賀温泉郷DMO) ・加賀市内三温泉 観光協会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

事業 18

事業名	ガーデンシティ構想の推進				
現 状	<p>加賀市には、豊かな自然と歴史文化に支えられた水と緑の風景や、市民が暮らしの中で育んできた景観が形成されています。</p> <p>この加賀市らしい風景を引き立て、観光振興や地域の活性化に繋げるため、花や緑の景観形成により、訪れる方々をもてなす地域づくりが必要です。</p> <p>また、この景観を維持するためには、官民協働による緑化活動の推進が求められます。</p>				
事業内容 と目的	<p>大聖寺川や動橋川、柴山潟、海岸等の水辺において、桜並木、田園、丘陵地の緑、白山や富士写ヶ岳等の加賀市の特徴的な水と緑を魅せる風景づくりを推進します。</p> <p>また、加賀市の玄関口であるJR駅やインターチェンジ周辺、温泉街や各観光地を連絡する主要幹線道路のほか、多くの観光客が訪れる温泉街や歴史的まち並みにおいて、花と緑による潤いあるもてなしの風景を創出します。</p> <p>更に、市民一人ひとりが暮らしの中で楽しみながら緑を育てられるよう、花飾り講習会や情報発信を行うほか、緑化推進団体の育成による連携体制を構築し、持続的な活動を推進します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 ・国土交通省金沢河川国道事務所 ・石川県大聖寺土木事務所 ・緑化推進団体（もてなしガーデナー） 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

第2節 戦略2：自然・歴史・文化資源の観光活用

施策 8 北前船の里「加賀橋立」の魅力向上

事業 19

事業名	北前船の里「加賀橋立」の再生整備				
現 状	<p>加賀橋立伝統的建造物群保存地区は、江戸後期から明治にかけて北前船の船主や船頭等が多く居住した集落で、往時の町割りを継承するとともに豪壮な赤瓦の家屋や笏谷石を用いた石垣等が数多く現存し、かつての繁栄を偲ばせます。歴史的建造物からなる町並みは、2005年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以後、歴史的建造物の保存修理、集落の景観整備を継続的に進めています。</p> <p>2017年度には北前船文化に関するストーリーが日本遺産に認定されたことを契機とし来訪者が増えています。</p> <p>地区内には公開施設として市指定文化財「旧酒谷長兵衛家住宅」（北前船の里資料館）、国の登録有形文化財「酒谷長一郎家住宅」（蔵六園＜民間施設＞）がありますが、周辺には施設や店舗が少ないことに加え、散策ルートが確立されておらず、集落全体の魅力を来訪者に伝えきれていません。橋立地区の歴史や文化、自然等の地域資源を十分に活用できているとは言えない状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>「北前船の里魅力再生整備事業（仮称）」として、北前船主が多く居住していた橋立地区内で、核となる北前船の里資料館の展示リニューアルや西出家跡地の活用を検討し、加えて、地区内の民間団体や歴史的建造物所有者との連携を図り、官民一体となり地域の再生整備を進め、地域全体の魅力を向上させます。</p> <p>サイン計画も含めた散策周遊ルートを確認し、「北前船の里」としての更なる魅力づくりを進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 教育委員会事務局 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀橋立まちなみ保存会 / 北前船の里保存会 ・橋立地区まちづくり推進協議会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

事業 20

事業名	北前船の里「加賀橋立」を活用した観光メニューの充実				
現 状	<p>北前船の船乗りたちが見た風景を追体験する「加賀海岸クルージング」等、新たな取り組みを進めています。</p> <p>展観施設を見学するだけでは観光での訴求力が弱く、年間を通じて体験できる新たな観光メニューの企画開発が必要となっています。</p> <p>現在、町並み散策のガイドは「橋立さわやかガイド」会員4名で、資料館内のガイドは「北前船の里資料館ボランティアガイド」会員6名で対応していますが、日本遺産認定後はガイドの需要が増加傾向にあり、今後の積極的な情報発信によってますますその需要が増えていくことが想定されるため、新たなガイドの育成が課題となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>今年度開催した「加賀海岸クルージング」事業を定番化させるとともに、橋立港産の魚介類や北前船をテーマとした食などをセットにした新たなメニューを検討します。</p> <p>北前船の歴史的なストーリーを感じながら、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている趣きのある町並みを散策できるコースづくりや観光メニューの企画開発を進めます。</p> <p>観光ガイドの育成に取り組み、増加傾向にあるガイドの需要に対応することで来訪者の満足度向上に努め、新規・リピーターの観光誘客を促進します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀橋立まちなみ保存会 / 北前船の里保存会 ・橋立地区まちづくり推進協議会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>→ 観光メニューの企画検討</p> <p>→ 観光メニューの提供</p> <p>→ 実施結果検証・新規メニュー検討</p> <p>→ 観光ガイドの育成</p> <p>新メニュー実践</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 21

事業名	広域連携による日本遺産関連事業の推進				
現 状	<p>2017年4月に北前船文化に関するストーリーが日本遺産に認定されました。全国の北前船関連自治体11市町で北前船日本遺産推進協議会を発足、加賀市長が会長となり協議会を牽引しながら、広域連携事業を推進しています。</p> <p>協議会は文化庁からの補助を受け、2017年度は、専門組織によるマーケティング調査等を行った上で、北前船文化に関するPR動画や教育動画、専門ガイドブック及びパンフレットの作成を行う等、広域連携によるスケール感を活かしながら国内外への情報発信を進めており、2018年度以降の本格的なブランド力向上と広域観光事業の実施を検討している状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>協議会では、全国の北前船関連自治体と広域連携を一層強化し、北前船ブランドの国内外への情報発信、首都圏の若年層を対象としたイベント開催の検討を進めます。</p> <p>また、首都圏の知的レベルの高い人たちを対象とするカルチャー教室を活用した講座開催及び現地研修旅行のセット事業を展開します。</p> <p>更に、スケールメリットを活かした広域観光ルートを確立し、国内外からの観光誘客の促進、交流人口の拡大を目指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 教育委員会事務局 / 経済環境部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構 (加賀温泉郷DMO) ・北前船日本遺産推進協議会 ・一般社団法人 北前船交流拡大機構 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>日本遺産魅力発信推進事業 3ヶ年 (国補助金)</p> <p>→ ガイドブック・動画等の制作</p> <p>→ 広域観光ルート策定 首都圏での講座イベントの実施 北前船をテーマとイベント開催 etc</p> <p>→ 広域観光ツアーの実施</p> <p>日本遺産魅力発信推進事業 (自走)</p>				

施策 9 「大聖寺十萬石」歴史文化資源の有効活用

事業 22

事業名	大聖寺の魅力向上に向けた再生整備				
現 状	<p>大聖寺地区は近世には大聖寺藩の藩都として発展し、北国街道を基軸とする城下町の構造は概ね今日に継承され、往時を偲ばせる町並みや歴史的建造物が各所に残っています。</p> <p>国の重要有形文化財「江沼神社長流亭」、市指定史跡「大聖寺城跡」がある錦城山、意図的に禅宗寺院等が集められた「山ノ下寺院群」等、大聖寺十萬石文化に由来する地域資源が多くありながら、観光誘客に活用できていない現状です。</p> <p>市指定有形文化財「旧新家住宅」は近代和風建築を代表する建造物ですが、利活用されていないため劣化が進んでいます。</p> <p>「大聖寺城跡」は織豊系城郭の遺構として貴重であり、現況を把握し保存活用を推進しています。</p>				
事業内容 と目的	<p>「旧新家住宅」は、「山ノ下寺院群」と錦城山や「江沼神社長流亭」を結ぶルートに位置することから、大聖寺地区内を周遊する際の重要な拠点施設と位置づけ、建物の価値を活かした利活用を考えながら保存修理の検討を進めます。</p> <p>「大聖寺城跡」は史跡公園として整備を進め、地域の憩いの場とするだけでなく、大聖寺十萬石の歴史を発信するスポットとして観光誘客に繋げる活用を検討します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所観光戦略部 / 建設部 / 教育委員会事務局 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・文化庁 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

事業 23

事業名	大聖寺の魅力向上による町並み散策の推進				
現 状	<p>大聖寺地区は、これまで主に山ノ下寺院群において周辺の自然景観とともに歴史的景観整備を行い、落ち着いた町並みが整っています。景観に配慮した道路や無電柱化など街路の修景工事を行ったり、図書館や大聖寺ふれあい広場「古九谷の杜」、石川県九谷焼美術館等の文化拠点を整備したりと、人々が集うことができるまちづくりを進めてきました。</p> <p>しかし、近年、周辺の豊かな自然環境や貴重な歴史的景観が失われつつあるため、これらを保全するとともに、この景観に配慮し周辺の建物を調和させ、統一感のある町並みを整備する必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>山ノ下寺院群を中心に、適切なまちづくりのルールに基づき周辺の建造物を含めた歴史的景観づくりを推進します。</p> <p>今後は、散策したくなるような町並み空間を形成するため、景観助成制度の活用により事業効果の迅速化を図り、景観の保全に努め、大聖寺十萬石文化を満喫できるような町並み散策計画等を作成します。</p> <p>山ノ下寺院群においては、通常拝観できない寺院の寺室などを公開するイベントやキャンペーンを実施します。</p> <p>大聖寺川流し船、春の熊坂川の桜並木、錦城山、江沼神社長流亭及び庭園、菅生石部神社などのスポットを巡る散策ルートを確立し、町屋なども活用しながら大聖寺の魅力を高め、誘客促進を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 / 教育委員会事務局 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・大聖寺地区まちづくり推進協議会 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画					

施策 10 山中温泉における自然・歴史資源の観光活用

事業 24

事業名	温泉情緒と鶴仙溪の自然を活かした散策ネットワークづくり				
現 状	<p>山中温泉は1300年にも及ぶという歴史を有し、中世には湯治の里として知られ、近世以来、松尾芭蕉や多くの文人墨客が訪れました。また、温泉街に沿って流れる大聖寺川の溪谷には鶴仙溪遊歩道が整備され、美しい自然を楽しみながら散策することができます。</p> <p>溪谷に架かるこおろぎ橋付近から、山中温泉のシンボルとも言える菊の湯周辺に至る「山中温泉ゆげ街道」は、石川県の街路事業により整備され、多くの観光客が訪れて町歩きを楽しんでいます。一層の観光誘客を図るためには、この沿道の賑わいを菊の湯から本町通りや湯の本町通りまで延伸することが必要です。</p> <p>本町通りの沿線町内会により、街路事業や広場整備を契機とした沿道まちづくりの検討が進められています。</p>				
事業内容 と目的	<p>山中温泉菊の湯周辺のまちなか周遊拠点と散策周遊ネットワークの強化・充実により、温泉街と鶴仙溪が一体となった回遊型観光まちづくりを推進します。</p> <p>菊の湯周辺での街路事業と温泉情緒漂う町並み整備を検討するとともに、店舗・旅館の跡地を活用した広場及び湯の本町通りの道路修景や案内サイン等の整備を進めます。</p> <p>商店街での空き店舗対策等を積極的に進めながら、温泉情緒の中に歴史・伝統文化・自然が感じられる山中温泉ならではの町並み整備を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 / 経済環境部 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・山中商工会 ・一般社団法人 山中温泉観光協会 ・山中温泉旅館協同組合 ・山中温泉商店協同組合 ・山中温泉町内会連合会 ・沿線町内会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>商店街の空き店舗対策・賑いづくり</p> <p>広場計画の検討</p> <p>都市計画道路の見直し検討</p> <p>新規事業化の検討 (街路事業・広場整備・町並み整備)</p>				

事業 25

事業名	「旧よしのや依緑園別荘」観光活用の推進				
現 状	<p>「旧よしのや依緑園別荘」は、水と緑豊かな庭園の中にあり、近代寺社建築の名工によって建築された「客殿」と、全国的にも貴重な高級壁紙である「金唐革紙」が施されている「本館」が比較的良好な状態で保存されています。かつては、昭和天皇を始めとする皇族方や吉田茂元首相ら政財界人、多くの文人墨客等が訪れ、山中温泉が誇る迎賓館として活用されてきました。</p> <p>現在は、南町ゆげ街道振興会が公開展示イベント等を開催していますが、十分な活用がされているとは言えないのが現状です。</p> <p>山中商工会と地元振興会が様々な調査を行い、具体的な活用策を検討しています。</p>				
事業内容 と目的	<p>地元から提言される活用策を踏まえ、文化観光施設としての一般開放に向けた適正な環境整備を進めます。</p> <p>歴史的建造物としての価値を損なわないよう改修等の整備を進めます。</p> <p>活用にあたっては、山中温泉を訪れる人々が「やすらぎ」と新たな魅力を感じさせる「ときめき」を体験できるとともに、建物と庭園が調和し、これらが一体となった「庭屋一如」の空間づくり、おもてなし文化の自覚と誇りが感じられる整備を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 山中温泉支所 / 観光戦略部 / 経済環境部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・山中商工会 ・一般社団法人 山中温泉観光協会 ・山中温泉旅館協同組合 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>活用策の検討</p> <p>公開・展示、体験等での活用</p> <p>修繕等整備事業</p>				

施策 11 山代温泉における歴史資源の観光活用

事業 26

事業名	「湯の曲輪」の温泉文化を活用した賑わいづくり				
現 状	<p>山代温泉には、共同浴場を中心に「湯の曲輪（ゆのがわ）」と呼ばれる昔ながらの温泉地の町並み形態が今も残され、近年は、総湯・古総湯及び周辺整備が進められ、温泉地の新たな魅力として観光活用されています。</p> <p>山代温泉は、九谷焼再興の地としての歴史文化を有し、「湯の曲輪」には、数多くの文人墨客が訪れる中で高い文化性を育んできました。近代では「北大路魯山人」が滞在し、芸術や食などの魅力に影響を受け、稀代の芸術家・美食家に成長したことで知られています。</p> <p>温泉地では、これらの資源の観光活用に取り組んでいますが、十分に定着がされておらず、効果的な賑いづくりが図られているとは言えない状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>総湯や古総湯、九谷焼、北大路魯山人など、観光客にとって興味度の高い観光文化資源をストーリー化させながら「湯の曲輪」を中心とした魅力的な散策メニューの企画開発を進めます。</p> <p>「湯の曲輪」周辺や温泉街において、魅力的なイベントや商店街のサービスキャンペーンなどを実施するなど、賑いづくりの取り組みを効果的に進めます。</p> <p>別事業で進める「あいうえおの郷構想」と連動させ、「湯の曲輪」に隣接する温泉守護寺「薬王院温泉寺」の歴史や「服部神社」から「萬松園」に続く自然資源も活用しながら新たな賑いづくりを進め、その中でKKR跡地の利活用についての検討も進めます。</p> <p>分散して立地する宿泊施設から「湯の曲輪」への動線路となる「温泉通り」などの商店街での空き店舗対策等を積極的に進めながら、温泉情緒の中に歴史・伝統文化が感じられる山代温泉ならではの町並み整備を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 建設部 / 経済環境部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・山代温泉 観光協会 / 旅館協同組合 / 商工振興会 / 商店街事業者 ・山代温泉まちづくり推進協議会 / 区長会 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>散策メニュー・イベント・キャンペーンの実施</p> <p>散策メニュー・イベント・キャンペーンの企画開発</p> <p>商店街の空き店舗対策・賑いづくり</p> <p>KKR跡地利活用・温泉街町並み整備の検討</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 12 片山津温泉における自然・歴史資源の観光活用

事業 28

事業名	「柴山潟遊歩」自然と歴史を活かしたまちづくりの推進				
現 状	<p>加賀三湖の一つ柴山潟は古くから水上交通の大動脈であり、一帯は原始から人々の生活の場となりました。柴山潟湖畔からの白山眺望は、石川県の眺望景観保全地域に指定され、周辺は源平合戦に由来する歴史文化資源が点在しています。</p> <p>湖畔の片山津温泉は近代以降繁栄しましたが、現在は往時の賑わいがなくなっているのが現状です。</p> <p>片山津温泉旅館街と総湯や中谷宇吉郎雪の科学館等の観光文化拠点と、首洗池等の歴史資源を繋げる水辺の周遊ルートの形成が必要です。</p>				
事業内容 と目的	<p>白山眺望や水辺空間などの自然と、周辺の歴史文化を重要な観光資源と捉え、温泉街、旧跡、柴山潟湖畔を遊歩道でつなぐ、まちと水辺と歴史を巡る片山津温泉の観光ルートを確立します。</p> <p>温泉商店街での空き店舗対策等を積極的に展開しながら賑わいを創出し、源平橋詰めの視点場、首洗池・手塚山公園の整備や新堀川沿い修景緑化等を進め、これらをつなぎ、湖畔の水辺を歩くことができる湖岸遊歩道の整備を行い、湖岸を一周できる遊歩道の確立を目指します。</p> <p>また、視点場整備と新堀川沿い修景緑化は、ガーデンシティ構想推進プランと関連し、小松空港や片山津インターから加賀温泉郷に入るゲートウェイとして、温泉観光地の第一印象の向上を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 建設部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・片山津温泉観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市商工会議所 ・柴山潟沿宿泊施設等事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>商店街の空き店舗対策・賑いづくり</p> <p>視点場整備</p> <p>遊歩道整備 (温泉1区～湖畔公園)</p> <p>遊歩道整備 (湖畔公園～源平橋)</p> <p>手塚山公園整備</p> <p>新堀川沿い修景緑化 (右岸)</p> <p>新堀川沿い修景緑化 (左岸)</p>				

施策 13 伝統文化の充実による魅力向上

事業 29

事業名	山中節の振興と芸妓文化の継承				
現 状	<p>市指定無形民俗文化財「山中節」は元禄の頃から、北前船の船頭衆が湯治の際に歌った松前追分を、山中温泉の浴衣娘（ゆかたべー）が山中なまりで歌ったのが始まりとされ、山中温泉芸妓らによって継承されています。山中座では山中温泉芸妓による山中節の唄と踊りを披露する山中節四季の舞を上演しています。</p> <p>山中温泉芸妓はピーク時には 200 人を超えていましたが、団体客の減少や宿泊客ニーズの変化などに伴い急速に減少し、現在では 5 人程度となっており、後継者育成が喫緊の課題となっています。</p> <p>毎年、山中節振興会が「山中節認定審査会」「山中節唄いやんこ」、山中温泉観光協会と山中商工会が「山中節全国コンクール」「山中節道中流し」をそれぞれ開催し、山中節の普及・振興に努めていますが、地元である市内からの参加者が年々減少している状態で、山中節及び芸妓文化の継承が危機的状況にあります。</p>				
事業内容 と目的	<p>山中節振興会や山中温泉観光協会等において取り組んでいる「山中節の振興」と「芸妓後継者の育成」に向けた事業をこれまで以上に推進します。</p> <p>山中節の底辺拡大と次世代への継承、普及広報に努め、認知度の向上を図ります。</p> <p>芸妓の新たな担い手（人材）発掘を進めるとともに、市内外のイベントなどを通じて芸妓文化の情報発信を強化しながら、芸妓が活躍できる機会を創出し、伝統文化の継承を推進します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 教育委員会事務局 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 山中温泉観光協会 ・山中温泉旅館協同組合 ・山中節振興会 ・山中座 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>山中節振興事業の展開</p> <p>事業の見直し・拡充、新規事業の展開</p> <p>イベントにおける芸妓の積極的参加</p> <p>芸妓後継者への活動支援</p> <p>芸妓担い手（人材）の発掘</p>				

事業 31

事業名	伝統工芸「山中漆器」活用事業の推進				
現 状	<p>山中漆器は、木地挽物と塗り・蒔絵に大別されます。山中温泉において、江戸中期に木地挽物の技術が伝わり、豊かな自然資源を背景に土産物として山中漆器を生み、江戸後期には加飾の技術が創出され、会津蒔絵の技法が加わることで温泉と並ぶ2大産業として発展を遂げ、現在では日本一の生産量を誇る漆器産地となりました。中でも木地挽きの技術は日本一と言われるように、県指定無形文化財「山中木地挽物」は、国の重要無形文化財「木工芸」の保持者「川北良造」氏に代表するように高い技術と芸術性を併せ持つ伝統工芸です。</p> <p>地元作家や職人による木地挽きや漆絵付け体験を継続的に行っており、女性客を中心に好評ですが、工房を使つての体験となるため、団体のお客様の対応ができていないのが現状です。</p>				
事業内容 と目的	<p>山中漆器の制作工程を一貫して教育する石川県立山中漆器産業技術センターの一般見学を可能とする2017年度の改修事業を踏まえ、山中漆器の魅力を市内外へ発信するため、同施設と併設している山中漆器の物販施設（山中うるし座）を活用した観光誘客事業を一体的に行い、着地型観光サービスを提供します。</p> <p>木地挽物及び蒔絵等の体験施設を拡充するとともに工房見学と一体となった観光メニュー確立の検討を進めます。</p> <p>本プランで進めることとしている施策2「見る・遊ぶ」、施策3「食べる・買う」というコンテンツの磨き上げの中で、「山中漆器」を活用した地域の魅力づくりを促進し、観光客の回遊性を高めながら滞在時間の延長と観光消費の増加に繋がります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 経済環境部 / 観光戦略部 / 教育委員会事務局 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・山中漆器連合協同組合 ・石川県立山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所 ・山中木地挽物技術保存会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>石川県山中漆器産業技術センター改修</p> <p>着地型観光サービスメニューの企画開発</p> <p>着地型観光サービスメニューの提供</p> <p>着地型観光ツアーメニューの企画開発</p> <p>着地型観光ツアーの実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 32

事業名	伝統工芸「九谷焼」活用事業の推進				
現 状	<p>九谷焼は大聖寺藩政期に現在の山中温泉九谷町に藩命により色絵磁器（古九谷）生産が始まったことに端を発し、現在まで継承される日本を代表する伝統工芸で、大聖寺十万石文化の一つとして現在も多くの作家が伝統を受け継ぎ、国内外で活躍しています。発祥地の山中温泉九谷町、再興の地山代温泉の2カ所が国の史跡「九谷磁器窯跡」に指定され、関連史跡や出土遺物、作品が現存し、石川県九谷焼美術館や九谷焼窯跡展示館等で公開されています。</p> <p>九谷焼窯跡展示館では、ロクロと絵付けなど九谷焼を実体験する事業を継続的に行っており、アンケート等からも観光客の満足度の高さがうかがえます。</p> <p>市内には古九谷及び九谷焼再興の歴史、美術品としての九谷焼を公開する施設、体験施設がありながら、点在するのみで、これらに関連づけ周遊するルートが確立されていない状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>九谷焼発祥の地「九谷磁器窯跡」から、九谷焼窯跡展示館、石川県九谷焼美術館等の九谷焼関連地を結び付け、資源と館の一層のブランド化を図るとともに、それらを体験観光や周遊観光に活用することを検討します。</p> <p>展観施設で学び、体験し、更に九谷焼関連地の町歩きも楽しめるツアーメニューなどの開発を考えていきます。</p> <p>本プランで進めることとしている施策2「見る・遊ぶ」、施策3「食べる・買う」というコンテンツの磨き上げの中で、「九谷焼」を活用した地域の魅力づくりを促進し、観光客の回遊性を高めながら滞在時間の延長と観光消費の増加に繋がります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 教育委員会事務局 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・石川県九谷焼美術館 ・加賀九谷陶磁器協同組合 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>着地型観光サービスメニューの企画開発 (2018年度～2021年度)</p> <p>着地型観光サービスメニューの提供 (2019年度～2021年度)</p> <p>着地型観光ツアーメニューの企画開発 (2018年度～2021年度)</p> <p>着地型観光ツアーの実施 (2019年度～2021年度)</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開) (2019年度～2021年度)</p>				

施策 14 展観施設の利用促進

事業 33

事業名	観光メニューの企画開発				
現 状	<p>加賀市は山地から日本海沿岸まで多様で豊かな自然があり、歴史文化が蓄積されています。地域固有の歴史文化を背景に日本あるいは世界を舞台に活躍した人物や、加賀市の自然や文化に魅かれて訪れた歴史的人物も多く、市内各所にその足跡が残るとともに展観施設として整備されているものもあります。</p> <p>展観施設は、観光客にとって非常に魅力的な資源でありながら、現状においては教育施設としての運用が中心となっており、今後は、観光的な要素を有効に取り入れ、施設の利用促進を図りながら観光誘客に繋げるメニューづくりが必要となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>地域資源とそれに関わる文化展観施設等、資源や館単体ではなく「北前船文化」「大聖寺十万石」「九谷焼や山中漆器を生み出したものづくり」等「加賀市歴史文化基本構想」を基本とした一定のテーマに沿ってグループ化して結び付け、資源と施設の一層のブランド化を図りながら、体験観光や周遊観光に繋がります。</p> <p>地域資源のうち、地域のシンボルともなる歴史的建造物や周辺環境を整備し、文化体験施設や賓客をもてなす場としての運用を検討します。</p> <p>展観施設で学び、地域で体験し、更に町歩きも楽しめるツアーメニューなどの企画開発を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・展観施設管理者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>展観施設の充実</p> <p>観光誘客に向けた企画メニュー検討</p> <p>企画メニューの実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 34

事業名	利用者へのサービスの充実				
現 状	<p>展観施設は、文化振興のみならず観光振興の観点からも重要な役割を担うべきものですが、現状においては十分な観光サービスを全ての施設で提供するまでには至っていません。</p> <p>利用者へのサービス向上の一環として「共通入館券」を販売しているものの、施設管理者間の連携不足により販売促進活動が不十分な状況となっています。</p> <p>各施設におけるパンフレットやホームページなどのデザインは全く統一感が無く、外国語対応などの情報発信も十分に出来ているとは言えず、施設におけるボランティア解説補助員の配置も施設によって不均衡で充実していません。</p> <p>また、展観施設を結ぶ交通アクセスも不十分な状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>施設管理者の連携による「展観施設連絡会議（仮称）」を開設し、相互協力体制を充実させます。</p> <p>施設間の連携体制のもと、共通入館券を活用したサービス向上などの取り組みを進め、パンフレット、ホームページ、SNSなどについても統一感のあるデザイン化を図り、外国語対応等の情報発信強化にも取り組みます。</p> <p>観光案内スポットとしての役割を持たせ、施設の案内のみならず加賀温泉郷全体の観光や歴史文化を解説できるボランティアを育成し、来訪者へのおもてなしサービスの強化を図ります。</p> <p>また、施設間を結ぶ交通アクセスを充実させるための方策等についての検討も進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・展観施設管理者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>連絡会議の開設 → 以後継続開催</p> <p>共通券、ガイド等のサービス提供 新ホームページの開設 →</p> <p>共通券、ガイド等のサービス向上の検討</p> <p>HP見直し、整備</p> <p>施設間交通アクセスの検討</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開) →</p>				

事業 35

事業名	旅行商品とのタイアップ化の推進				
現 状	<p>加賀市に訪れる観光客に対して、加賀市の歴史や文化、自然などの魅力を伝え、地域の満足度をいかに高めるかが大きな課題となっています。</p> <p>そのような中で、展観施設においては旅行会社と提携しながら観光クーポン等を活用した旅行商品化を図っていますが、十分とは言えない状況です。</p> <p>来訪者の観光地に対するニーズが年々多様化していることも踏まえ、加賀温泉郷への宿泊旅行商品とのタイアップによる施設利用の促進を図りながら誘客に繋げる必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>各展観施設においては、単なる入館利用だけではなく、ガイドサービスの提供やテーマに沿ったストーリー性のある体験観光などを組み込んだ、新たな周遊観光商品を、旅行業者等とのタイアップにより企画開発し、様々なニーズに対応することでサービスを充実させます。</p> <p>商品化に向けた窓口を一元化させ、旅行会社や旅行雑誌等に対する営業活動を強化しながら、新たなタイアップ旅行商品の企画開発と販売促進を進めます。</p> <p>来訪者へのサービスの向上に向け地域交通機関とも連携し、より魅力的な旅行商品を企画販売し、観光誘客の促進を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 山中温泉支所 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・展観施設管理者 ・旅行業者 / 旅行雑誌社 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>旅行商品の企画開発</p> <p>旅行商品の販売</p> <p>旅行会社や旅行雑誌社へ営業活動</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 15 自然資源の観光活用

事業 36

事業名	山村集落「加賀東谷」の魅力向上				
現 状	<p>加賀東谷伝統的建造物群保存地区は、動橋川と大聖寺川支流の杉ノ水川上流の山間地域であり、かつて炭焼きで栄えた山村集落です。荒谷・今立・大土・杉水の4集落で構成される地区内には赤瓦に煙出しを持つ伝統的な農家やそれを取り巻く豊かな自然環境がよく残されています。2011年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、以後、歴史的建造物の保存修理や集落の景観整備を大学とも連携しながら継続的に進めています。</p> <p>また、地区保存会や住民による散策マップの作成や外国人を含む若者等の農村体験受け入れ等積極的な民間による地域活性化事業も行っています。</p> <p>しかし、保存修理や拠点施設整備が進んできているものの、空き家が多く、建物の有効活用ができず、来訪者に対応できる公開施設やガイド施設が無いのが現状です。</p> <p>集落間を歩いて移動することは困難で、加えてガイドも不在であり、来訪者へのサービスが不十分です。</p>				
事業内容 と目的	<p>地区を保存し、観光客への対応を可能にするためにも、歴史的建造物である空き家の活用策を検討するとともに、定住促進を図っていきます。</p> <p>また、空き家を活用し核となる施設を整備できるよう、地区保存会や住民、歴史的建造物所有者との連携を図り、官民一体となって観光客対応が可能となる施設を整備できるよう検討します。</p> <p>歴史的建造物を活用し、これを取りまく四季折々の自然美の中で山村特有の民俗文化や農作業等、都市圏や外国では味わえない魅力的な体験を取り入れた観光メニューを検討していきます。</p> <p>地区内を周遊する交通整備の可能性を検討するとともに、ガイドの育成を図っていきます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 教育委員会事務局 / 市民生活部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・文化庁 ・山中温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・山中温泉ひがしたに地区保存会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>保存修理・活用可能物件 検討</p> <p>体験メニューの企画開発</p> <p>体験メニューの提供</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 37

事業名	「加賀海岸」の魅力向上				
現 状	<p>加賀海岸は、大聖寺藩政期に飛砂防止のため松等を植林し、現在は加賀海岸国有林となっています。集落や田畑を飛砂や潮風から守る海岸の松林は、人びとの活動によって作られた優れた景観であるとともに市民の憩いの場であり、越前加賀海岸国定公園の一部となっています。</p> <p>また、この海岸は一草一木もない大地から植物を始めとする多様な生態系を有する自然環境を創り出しながら、積極的なPRがなされておらず、また、観光としての活用がなされていないのが現状です。</p> <p>周辺には、江戸時代に水田開発のため整備され、現在は水鳥の楽園となっているラムサール条約登録湿地である県指定天然記念物「片野鴨池」や国の天然記念物「鹿島の森」がありますが、それらを周遊する観光ルートも設定できていません。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀海岸とその周辺景観を文化的景観地区として選定し、加賀海岸の自然景観を観光活用する計画についての検討を進めます。</p> <p>先人が取り組み大切に受け継がれ保存してきた景観を、その文化的な価値を正しく評価し、地域で守り次世代へと継承するとともに、活用していくことを目指し、加賀海岸文化的景観検討委員会において、国の文化的景観への選定を視野に入れた取り組みを進めます。</p> <p>加賀海岸を活用した新たな観光体験メニューを企画開発しながら、海岸沿いを周遊できる観光ルート化を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 / 教育委員会事務局 / 建設部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・文化庁 ・林野庁 ・石川県 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画					

第3節 戦略3：情報発信強化と営業促進

施策 16 インターネットを活用した効果的な情報発信

事業 38

事業名	観光情報サイト「KAGA旅・まちネット」の充実				
現 状	<p>加賀市の観光情報をインターネットで総合的に発信する唯一のポータルサイト「KAGA旅・まちネット」が運営されていますが、IT化が進む現代のユーザーニーズに適応したデザインやページ構成などの刷新が求められています。</p> <p>掲載情報の多言語化、スマートフォンやタブレット用サイトの構築、SNSを活用した情報発信などの取り組みを進めていますが、そのサービス内容は十分とは言えない状況です。</p> <p>今後、インターネットによる情報発信へのニーズが益々多様化していく中で、「KAGA旅・まちネット」サイトの果たす役割は重要となってきています。</p>				
事業内容 と目的	<p>現代のインターネットユーザーのニーズに応じたサイトのリニューアルを進め、トップページから次の階層ページへの誘導方法、地域やテーマ別などのカテゴリーの適正化、データベース情報の充実、検索機能の充実など、より見やすく、見ごたえのある内容へと改善を図ります。</p> <p>スマートフォンやタブレットに対応したページ内容を充実させ、FacebookやTwitterに加えInstagramへの対応も進めます。</p> <p>GPSによる現地誘導サービスの充実やAIによる新たな案内サービスの導入などについても検討を進めます。</p> <p>外国人観光客の増加に向け、外国語対応ページの充実を図り、多言語化においても言語数を増やしていくことも検討します。</p> <p>サイトを通じ、観光ニーズに関するユーザーの傾向を詳細に把握しながら、サイト内でのアンケート調査などによる顧客満足度や動態調査なども行い、分析結果を検証しながら誘客施策に繋げます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市観光情報センター KAGA旅・まちネット 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>多言語化拡充を検討</p> <p>アクセスページリニューアル</p> <p>新たな案内サービスの導入検討</p> <p>KAGA旅・まちネット 全面リニューアル</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 39

事業名	インターネット旅行サイトを活用した情報発信強化				
現 状	<p>加賀市内の宿泊施設の予約経路は、45%～50%の割合がインターネットからによるものです。</p> <p>インターネット上では、宿泊施設の情報に加え、特別感のあるサービス、お得な特典、旬な情報など、地域の魅力を発信することも、旅行先を決定する重要なポイントとなります。</p> <p>また、旅行サイトの中では、他の観光地や温泉地に先んじて多くの魅力的な情報を効果的に発信し、露出度を高めることが求められます。</p> <p>今後、個人旅行が増加し、IT化が進む中で、インターネットでの情報収集やオンライン予約は益々増加することが予想され、その対策を講じる必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>戦略1で展開する魅力創出・向上に向けた事業の情報を、インターネットサイトで効果的に発信します。</p> <p>特に、企画開発された魅力的な宿泊パッケージプランを、予約サイトの中で積極的に取り扱うことで誘客促進を図ります。</p> <p>ターゲットとする地域、旅行形態、性別、年齢層、年収別など、誘客を強化すべき対象を明確にし、ターゲティングによる効果的な情報発信を展開します。</p> <p>旅行サイト独自のアプリケーションソフトの活用や会員向けのダイレクトメールでの旬でお得な情報配信など、広く加賀温泉郷の魅力を発信します。</p> <p>インターネットでの予約者限定のお得なクーポンなども企画し、ダイレクトに誘客に結び付く事業を展開します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 ・加賀市内観光事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>魅力的な宿泊パッケージプランの企画開発</p> <p>ターゲティングによる情報発信</p> <p>予約者限定クーポンなど企画開発</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 40

事業名	SNS (ソーシャル ネットワーク サービス) による効果的な情報発信				
現 状	<p>現代社会において、SNSは急速に発展し、情報を日本のみならず全世界へ発信する上で、非常に有効な告知手段となっています。</p> <p>行政や加賀市観光情報センターKAGA旅・まちネットにおいて、FacebookやTwitterなどによる情報発信を行っていますが、本格的な取り組みには発展しておらず、大きな効果は得られていません。</p> <p>SNSは、今後も更に発展していくものと予想され、加賀市としてこれをいかに活用し、観光情報を有効に発信していくかが重要な課題となっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSにより、加賀温泉郷の観光情報を効果的に発信するため、ユーチューバー、インスタグラマー、ブロガーと呼ばれる情報拡散力の高いインフルエンサーなどを活用した事業を展開します。</p> <p>また、情報発信に影響力のある加賀市ゆかりの著名人や芸能人などへの働きかけも併せて行います。</p> <p>加賀温泉郷への来訪者にSNSによる情報拡散させるような新たな企画事業を展開します。</p> <p>観光業界関係者のみならず、加賀市民に地域の魅力を積極的に発信してもらえるような仕掛けづくりも進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構 (加賀温泉郷DMO) ・加賀市内三温泉 観光協会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>インフルエンサーを活用した事業展開</p> <p>情報拡散に向けた企画メニューの開発</p> <p>情報発信への新たな仕掛けづくり</p> <p>事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 17 各種媒体による効果的な情報発信

事業 41

事業名	各種メディア(テレビ・ラジオ・雑誌・新聞等)による情報発信				
現 状	<p>現代社会では、インターネットによる情報発信が主流ながらも、テレビ・ラジオ・雑誌・新聞等のメディアにおいて話題性の高い情報が取り上げられると大きな誘客効果が得られます。</p> <p>テレビやラジオ、新聞広告などは、旅行に興味が無い人や加賀温泉郷を知らない人など潜在的な顧客予備軍に対して広く情報提供できるツールと考えられます。</p> <p>また、旅行雑誌は、旅行ニーズの高い顕在層に対するアプローチとして有効な手段とされています。</p>				
事業内容 と目的	<p>テレビ・ラジオ・雑誌・新聞等への広告掲載は、効果検証が難しいとされていますが、広告宣伝を行う場合には、その内容や予想される効果を検証した上で、地域別や対象者ごとのターゲティングをしっかりと行い、効果的な情報発信を展開します。</p> <p>費用対効果が高いとされるパブリシティーによる企画において頻繁に取り上げられるよう、加賀温泉郷の話題性を高めながら、魅力的な情報を積極的にプレスリリースします。</p> <p>地元のみならず全国のメディアに対し、定期的に情報発信を行う仕組みづくりを進め、取材等の受入体制を充実させます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構 (加賀温泉郷DMO) ・加賀市内三温泉 観光協会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>メディア広告の効果検証</p> <p>パブリシティーによる積極的な情報リリース</p> <p>効果的な広告宣伝活動の展開</p> <p>事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 42

事業名	特命大使による情報発信				
現 状	<p>2017年度からの新規事業として、加賀市特命「かがやき大使」によるPR事業を展開しています。</p> <p>大使第1号として、加賀市ゆかりの芸能タレント「グッチ裕三氏」を任命し、加賀市の魅力を広く情報発信するとともに、加賀温泉郷のイベントなどへの出演による賑いづくりと誘客促進を図っています。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀市特命「かがやき大使」を活用し、本施策の事業41で展開するテレビ・ラジオ・雑誌・新聞などの各種媒体でのPR強化を図ります。</p> <p>大使には、知名度・認知度・人気度を活かし、都市圏でのPRイベントや地域の集客イベントに出演してもらい、加賀温泉郷の魅力発信と地域の賑わいづくりを進めます。</p> <p>また、加賀温泉郷の魅力を高めるためのアイデアやアドバイスを提供してもらうとともに、加賀市関連事業以外の様々な場面でも、大使の高い情報拡散力を活かすことで加賀温泉郷の魅力発信の強化を図ります。</p> <p>第2号・第3号と新たな大使候補の選定を進め、認定に向け検討します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市特命かがやき大使 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>→ かがやき大使第1号の任命</p> <p>加賀温泉郷の魅力発信と地域の賑わいづくり</p> <p>2号・3号の認定検討</p> <p>事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 18 誘客に向けた営業強化

事業 43

事業名	都市圏へのトップセールスなど観光PR活動の強化				
現 状	<p>2015年春の北陸新幹線金沢開業を契機とした誘客強化を図るため、2016年度から、首都圏において、旅行会社への訪問セールス、旅行商品化に向けた販売促進会議、交流会を、市長を先頭に観光業界との連携のもと官民一体で継続実施し、大手旅行会社とのタイアップによる加賀温泉郷への旅行商品が数多く企画造成されています。</p> <p>首都圏を始めとする都市圏での旅行見本市や博覧会、各種イベントなどにおいて観光物産PRブースを出展し、加賀温泉郷の魅力を広くPRしています。</p> <p>今後は、2023年春に予定されている北陸新幹線延伸を見据えながら、首都圏に加え関西圏や中京圏などでのPR活動の強化も必要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>首都圏へのトップセールスを継続実施するとともに、加賀温泉郷にとって大きな市場シェアを占める関西圏においても新たに実施します。</p> <p>関西圏での旅行商品はJRを利用する企画が多くを占めている状況を踏まえ、JR西日本との連携を強化しながら効果的なセールス活動を展開します。</p> <p>今後は、旅行会社やメディア機関に加え、情報発信力のある加賀市ゆかりの人たちへの情報発信も併せて行いながら、セールスプロモーションの更なる強化を図ります。</p> <p>2023年春に予定されている北陸新幹線延伸を見据えながら、更なる観光誘客を図るため、都市圏での旅行見本市や博覧会、各種イベントなどでの観光PRをこれまで以上に充実させます。</p> <p>ターゲットとすべき地域や対象を明確にししながら、事業の取捨選択を行い、費用対効果の高い観光PR活動を展開します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内観光事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>都市圏へのトップセールスの実施</p> <p>JR西日本や旅行業者との連携強化</p> <p>観光プロモーションの強化・PRツールの充実</p> <p>効果的な新規PR事業の展開</p> <p>事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 44

事業名	旅行会社やメディアへの積極的なアプローチ				
現 状	<p>旅行会社においては、上半期・下半期の年2回に分け、旅行商品の企画造成が行われています。</p> <p>その企画造成の時期に合わせ、首都圏、関西圏、中京圏の都市圏の旅行会社やメディアへの訪問営業キャラバンを、石川県と共に実施しています。</p> <p>また、旅行会社やメディアの担当者に現地を視察してもらい加賀温泉郷の魅力を紹介するような招聘事業などにも積極的に参画しています。</p> <p>ただし、これらの事業は、石川県が主導する事業に参画するものが多く、主体的に実施する取り組みを強化する必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>石川県事業への参画の際には、他の自治体に負けないよう、厳選された魅力的な観光素材をラインアップし、積極的なアプローチを図ります。</p> <p>旅行会社やメディアの担当者を招聘する際にも、しっかりと加賀温泉郷の魅力を感じてもらえるよう、ガイドンス体制を充実させます。</p> <p>更に、加賀市独自のキャラバン活動や商談会、PRフェアなどを市内三温泉観光協会との連携体制のもと積極的に展開します。</p> <p>旅行会社やメディアの担当者との名刺交換から得た連絡先情報を有効に活用し、加賀温泉郷の旬な観光情報をダイレクトメールなどで定期的にリリースするような体制づくりを進めます。</p> <p>大手旅行会社とのタイアップによる加賀温泉郷への旅行商品の企画造成を強化しながら、更なる誘客促進を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内観光事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>観光素材の洗い出し (2018年度)</p> <p>観光PR体制の充実 (2018年度～)</p> <p>旅行会社やメディアへの積極的なアプローチ (2018年度～)</p> <p>旅行会社とのタイアップによる商品化 (2018年度～)</p> <p>事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開) (2018年度～)</p>				

第4節 戦略4：北陸新幹線加賀温泉駅開業への対策

施策 19 「東京2023加賀」プロジェクトの展開

事業 45

事業名	北陸新幹線加賀温泉駅開業に向けた話題性づくり				
現 状	<p>2023年春に予定される北陸新幹線敦賀延伸における加賀温泉駅での停車は、加賀市の活性化を図る上で非常に重要となります。</p> <p>そのため、2017年8月に、加賀温泉駅における全便停車を目指した「東京2023加賀」プロジェクトを発足させました。</p> <p>プロジェクトの発足に併せ、PR動画を制作しインターネットによる配信を行っており、動画では、北陸新幹線を加賀温泉駅に全便停車させることをテーマに、自虐的でコミカルなドラマ仕立ての内容とし、全国放送の朝の情報番組において全国ご当地PR動画のグランプリの評価を受けました。</p> <p>今後は、動画を始め、あらゆる手法を用いながら、北陸新幹線延伸をテーマとした加賀温泉郷の話題性づくりを更に進める必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>2017年度に配信を開始したPR動画の続編を継続的に配信します。</p> <p>動画は「話題性」を重視したクオリティーの高い作品とし、面白さの中にも、加賀温泉郷の魅力をしっかりと発信し、誘客促進に繋げる内容とします。また、北陸新幹線延伸に向けた機運の醸成を図り、多くの市民の方の参画のもと、市を挙げた歓迎やおもてなしの要素も盛り込んだ、魅力的なものを目指します。</p> <p>動画のみならず、ホームページ、ポスターやチラシ、PRグッズなどによる周知活動なども展開します。</p> <p>北陸新幹線が延伸された際には、多くの観光客が加賀温泉駅を利用して来訪したくなるような誘客プロモーションを進めながら、加賀温泉駅開業に向けた整備の進捗状況、市民の期待や熱意など、ニュース性の高い情報を頻繁に発信することで、話題性の向上を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>PR動画第2弾制作</p> <p>PR動画第2弾配信</p> <p>PR動画第3弾制作 (2023まで毎年継続)</p> <p>PR動画第3弾配信</p> <p>ポスター・チラシ・グッズ等の制作PR</p> <p>北陸新幹線延伸に向けた情報発信強化</p>				

事業 46

事業名	市民意識の醸成に向けた啓発活動の展開				
現 状	<p>北陸新幹線加賀温泉駅及び周辺整備に向けては、市内の各種団体の参画のもと「加賀温泉駅施設整備委員会」を組織し、観光誘客や市民利用の観点からの検討を行っています。</p> <p>各種業界における関心度が高い一方で、市民それぞれが開業を意識できるような会議や参画イベントなどは積極的に実施されていません。</p> <p>今後は、整備状況の進捗などをオープンにしながら開業に向けた市民意識の醸成を図り、他の沿線地域に負けないよう、加賀市全体の機運を盛り上げていく必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>北陸新幹線加賀温泉駅及び周辺整備の進捗状況を、市広報誌や市ホームページなどで定期的に公開するとともに、地元の新聞紙やテレビ局などの報道機関による情報発信も強化しながら市民の興味度を高めます。</p> <p>市民参加による、開業を意識できるような会議や参画イベントなどの定期的な実施についても検討します。</p> <p>本施策の事業 45 にて制作を進める P R 動画などにおいて、多くの市民参加を促すなど、様々な場面で市民が参画できる企画を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 建設部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀市内 各種市民団体 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>市民参加による P R 動画の制作（2023 まで毎年継続）</p> <p>P R 動画の配信（継続）</p> <p>市広報誌や市ホームページなどでの啓発活動</p> <p>市民参加による会議や啓発イベントの開催（年 1 回）</p>				

事業 47

事業名	広域連携による敦賀延伸プロモーションの展開				
現 状	<p>2023 年春に予定されている北陸新幹線延伸において、金沢－福井間の停車候補駅での停車内容は決定されていませんが、延伸の際には、越前加賀地域は大きな脚光を浴びることが想定され、観光誘客面において加賀温泉駅が中心的な役割を担って行かなければなりません。</p> <p>県境を跨いだ福井県側の地域には、芦原温泉、東尋坊、永平寺、恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡、丸岡城など、魅力的な観光資源が数多く存在し、これらを有する地域との連携を強化しながら、北陸新幹線延伸に向けた越前加賀地域の観光プロモーションを強化することが重要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>インバウンド観光の推進を目的とした「越前加賀インバウンド推進機構」の事業に加え、北陸新幹線加賀温泉駅開業に向けた越前加賀地域の組織体制づくりを進め、新たな誘客施策の展開を図ります。</p> <p>J R 西日本や J R 東日本との連携を図りながら、首都圏を始めとした沿線地域に加え、関西圏や中京圏などの都市圏に向けた誘客プロモーション活動を積極的に展開します。</p> <p>加賀温泉駅を起点として、越前加賀や南加賀を周遊観光できる魅力的な広域観光ルートを形成し、北陸新幹線延伸効果の最大化を目指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・県境自治体 / 県境地域の観光団体 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>Timeline of activities:</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年度: 広域連携に向けた組織体制の検討 2018年度: 広域連携事業計画の検討 2018年度～2020年度: 広域連携での魅力づくり（観光ルート化） 2018年度～2021年度～: 北陸新幹線延伸に向けた誘客プロモーションの展開 				

施策 20 駅及び周辺の機能の充実

事業 48

事業名	温泉観光地の玄関口に相応しいデザイン景観の形成				
現 状	<p>加賀温泉駅は、温泉観光地の玄関口として大きな役割を担っています。周辺は、大型商業施設、飲食店、及び美術館が隣接し、正面には加賀市医療センターが開院しています。</p> <p>駅周辺の景観については、景観形成地域となっており、景観の規制がなされているものの、規制が開始される以前の建物等については、建築当時のままとなっており、駅前全体のデザイン景観は統一されていません。</p> <p>北陸新幹線敦賀延伸に向け、駅名変更などを含めた新たなイメージづくり、駅舎及び周辺のデザイン景観の統一化などが必要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>北陸新幹線加賀温泉駅開業に向け、加賀温泉駅が温泉観光地の玄関口に相応しいデザインとなるよう、周辺の景観にも配慮した、加賀温泉駅舎及び駅前広場の整備を進めます。</p> <p>新幹線駅舎及び駅前広場の各施設については、加賀市の自然、歴史、文化が感じられる外観および内装となるよう、デザインの検討、設計を進めます。</p> <p>加賀温泉駅周辺の建物には、加賀温泉駅舎及び駅前広場と調和が保たれるよう、外観の改装等の協力についての要請を行いながら、地域が一体となった取り組みを進めます。</p> <p>また、加賀温泉駅の駅名についての議論も進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 / 経済環境部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀商工会議所 ・加賀市内三温泉 観光協会 ・西日本旅客鉄道 株式会社（JR西日本） / JR加賀温泉駅 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>新幹線駅舎デザイン選定、駅前広場内施設デザイン検討</p> <p>駅舎内及び駅前広場内の施設の機能及び運営の検討</p> <p>駅舎内及び駅前広場整備 (2022 年度末まで)</p>				

事業 49

事業名	観光インフォメーション機能の充実				
現 状	<p>加賀温泉駅における観光インフォメーションについては、一般社団法人加賀市観光交流機構が運営する観光情報センター「KAGA旅・まちネット」が主体となり、サービス向上を図っています。</p> <p>北陸新幹線加賀温泉駅開業の際には、同施設のインフォメーション機能を更に充実させるとともに、駅舎や駅周辺における看板や案内サインのデザインや機能も改善させ、来訪客を迎え入れる体制づくりが必要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>北陸新幹線加賀温泉駅の整備において、観光情報センター「KAGA旅・まちネット」観光案内所の機能を強化します。</p> <p>設置場所や設置スペースなど、来訪客が尋ねやすい環境を整え、職員の接客対応の更なる向上を図りながら、新たなインフォメーション機能を導入するなど、加賀温泉駅を利用する来訪客へのサービスを高めます。</p> <p>観光ポスターのデジタルサイネージ化や案内サインのデザイン統一化を図るなど、情報発信と誘導機能を充実させます。</p> <p>インバウンド観光の推進に伴う外国人観光客の増加を見据え、多言語でのインフォメーションサービス機能を向上させます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所観光戦略部 / 建設部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・西日本旅客鉄道 株式会社（JR西日本） / JR加賀温泉駅 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>KAGA旅・まちネット機能強化の検討</p> <p>KAGA旅・まちネット機能強化</p> <p>駅舎内施設の案内サイン等配置検討</p> <p>観光団体等との案内機能の協議</p> <p>案内サイン計画・設置工事 (2022年度末まで)</p>				

事業 50

事業名	利便性の高い交通機関利用場所や駐車場の整備				
現 状	<p>公共・民間を問わず長時間駐車を対象とした時間貸し駐車場が不足しており、北陸新幹線加賀温泉駅開業時には、更なる不足が予想されます。</p> <p>また、大型観光バスの駐車場がないため、ツアー会社による加賀温泉駅利用が敬遠されがちとなり、観光誘客の面で支障が生じています。</p> <p>市内温泉地からの旅館の送迎バスや一般送迎車の駐車時間帯について、ピーク時とそうでないときの格差が著しく、混雑時でのスペース確保が課題となっています。</p> <p>冬期間は風の強い日が多く、雨や雪が吹き付けることを踏まえた、広場のあり方についての検討を要しています。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀温泉駅周辺整備において、優先すべき交通を選択させ、公共交通としての路線バス・CANBUS・タクシー・乗合タクシーを駅舎から至近に配置します。</p> <p>既存の施設配置を踏襲し、バス（路線・CANBUS・送迎・観光）と一般車・タクシーの動線を分離します。また、一般車とタクシーの動線を分離します。</p> <p>シェルター・高架下などの屋内空間により、悪天候時における快適性に配慮した広場を整備します。</p> <p>加賀温泉駅の利用者を増やすため、観光バスの駐車場の確保とパーク＆ライド駐車場を整備するなど、安全で快適な空間づくりを進めます。</p> <p>バス施設を充実させ、温泉旅館の送迎バスの施設容量の充実、路線バスと送迎バスの需要変動に対応できる駐車場整備を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内タクシー事業者 ・加賀市内バス運行事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画					

事業 51

事業名	観光商業施設の確保と動線の整備				
現 状	<p>加賀温泉駅周辺は、大型商業施設、飲食店、及び美術館が隣接し、正面には加賀市医療センターが開院しています。</p> <p>観光土産を販売する店舗は近接する大型商業施設にありますが、バス乗降施設と反対側に位置し、観光客の利便性として良いとは言えません。</p> <p>また、近年大きく増加している外国人観光客に多く見られる、大型の旅行カバンを預けられる場所がなく、駅周辺での買い物を含む散策に少なからず影響を及ぼしています。</p>				
事業内容 と目的	<p>北陸新幹線加賀温泉駅開業に向け、駅前広場の再整備を行い、送迎バス乗降場所と既設商業施設を近接させ観光客の利便性を確保します。</p> <p>また、観光案内所を駅舎内の改札を出た後に分かりやすい場所に配置します。案内表示の設置や駅舎の内装などは、加賀温泉郷ならではの伝統工芸を取り込んだものとするなど、市の文化・伝統等を発信・アピールすることを検討しながら設計を進めます。</p> <p>海外からの旅行者等にも分かりやすいユニバーサルデザインの案内サインを検討しながら設計を進めます。</p> <p>また、訪れた人が気持ちよく使えるトイレや大型旅行カバンにも対応するコインロッカーの整備についても検討を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 建設部 / 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀市内三温泉 観光協会 ・西日本旅客鉄道 株式会社（JR西日本） / JR加賀温泉駅 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画					

第4節 戦略5：インバウンド観光の推進

施策 21 海外都市交流施策との連動

事業 52

事業名	海外都市との友好・交流関係の継続				
現 状	<p>2014年に台湾の台南市（友好都市）、高雄市（観光交流）、高雄市鼓山区（友好交流）、2016年に桃園市（友好都市）との各協定を締結しています。</p> <p>また、シンガポールとは、2015年にチンゲイパレードへ参加したことをきっかけとして、中学校や大学などと教育交流を行っています。</p> <p>加賀市が世界から認められる国際観光都市を目指していくには、こうした海外都市交流を基礎とした取り組みが欠かせません。こうした取り組みが、海外からの誘客に繋がっていくものと考えます。</p>				
事業内容 と目的	<p>今後も、アジア地域を中心に高い経済成長が続く中で、外国人観光客の増加は続くとみられます。その中で、特に台湾とシンガポールは、今後ますます加賀温泉郷にとって大きな市場となります。</p> <p>観光のみならず、文化、芸術、スポーツ、教育、産業等、多様な分野での交流を継続的に推進し、交流人口の拡大を図りながら、アジア諸国からの誘客に繋げていきます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市都市交流協議会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>台湾各友好都市との新たな交流事業の検討</p> <p>台湾各友好都市との新たな交流事業実施</p> <p>シンガポールとの新たな交流事業の検討</p> <p>シンガポールとの新たな交流事業実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 53

事業名	新たな海外都市との交流推進				
現 状	<p>これまでに台湾やシンガポールなどのアジア諸国に対し、観光、文化、芸術、スポーツ、教育、産業等、多様な分野において、海外都市交流の積極的な姿勢を示してきたことで、アメリカ・ポルトガル・ハンガリーのような欧米などの多くの外交関係者等が加賀市を認知し、訪れるようにまでなっています。</p> <p>こうした積極的な姿勢を示していくことで、新たな海外都市との交流に繋がっていくものと考えます。</p>				
事業内容 と目的	<p>世界で誰もが知る国際観光都市を目指すためには、アジア諸国以外の新たな海外都市との交流拡大を進めていく必要があります。</p> <p>今後、台湾やシンガポールなどのアジア諸国のみならず、欧米を中心とした新たな海外都市との交流を進めながら、貿易の促進や教育交流などの人的交流も含め、より精力的に海外からの活力を取り込むための展開を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市都市交流協議会 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>欧米等との交流事業、 プロモーション計画の企画立案</p> <p>欧米等との交流事業、 プロモーションの展開</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 22 海外誘客の促進に向けた事業展開

事業 54

事業名	加賀温泉郷が一体となった情報発信				
現 状	<p>歴史ある三つの温泉地（山代温泉、山中温泉、片山津温泉）をインバウンド誘客に効果的に活かしきれておらず、加賀温泉郷は、外国人観光客にとって知名度が低く、魅力が伝わっていません。</p> <p>加賀温泉郷の面白さや素晴らしさを幅広く浸透させるための海外向けの宣伝や情報発信が必要です。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀温泉郷を魅力ある地域ブランドとして、一体的に展開するために、外国語版ホームページを外国人の視点を取り入れながら、更に魅力あるものに更新します。</p> <p>また、Facebook や Instagram などの SNS を活用し、効果的に拡散しながら加賀温泉郷を情報発信します。</p> <p>更に、既存の外国語パンフレット・マップ・動画素材などのツールを整理し、活用していくことで、加賀温泉郷としての魅力と知名度をしっかりと伝えていきます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>外国語ホームページのコンテンツ充実</p> <p>SNS の効果的な拡散方法の検討</p> <p>SNS による情報発信</p> <p>外国語パンフレット、マップ、PR 動画等更新</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 55

事業名	戦略的な海外プロモーションの展開				
現 状	<p>台湾やシンガポールでのトップセールスや国内最大級の旅行博への出展、海外旅行社の招聘など、アジア諸国を中心にプロモーションを行っています。</p> <p>加賀市に訪れている外国人観光客の約8割がアジア諸国であり、その他の市場を取り込めていません。</p> <p>今後、インバウンド誘客を進め、新たな戦略プランに掲げた目標を達成するためには、アジア諸国のみならず、欧米を始めとした市場からの誘客を実現していく必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>加賀温泉郷へ宿泊した外国人へのアンケート調査や外部ビッグデータなど、各種データを活用しながら、地域・旅行形態・性別・年齢層など、ターゲットごとに戦略的にプロモーションを行います。</p> <p>そして、これまでに行ってきた海外へのトップセールスを始め、海外旅行会社やランドオペレーターなどの招聘、国内での国際旅行博への出展など、海外メディアなどへのプロモーションを継続して行います。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>外国人宿泊客へのアンケート実施</p> <p>各種データ分析によるターゲット把握</p> <p>海外出向宣伝、旅行会社・メディア等招聘</p> <p>動画広告、Web広告等の検討</p> <p>動画広告、Web広告の実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 56

事業名	加賀温泉郷ポータル宿泊サイトの構築				
現 状	<p>外国人観光客の予約方法として、殆どが宿泊施設予約ウェブサイトや個々の宿泊施設のウェブサイトなど、インターネットを利用した予約方法が広く利用されています。</p> <p>現在の外国語版ホームページは、観光情報のみのサイトとなっており、観光情報から加賀温泉郷への宿泊へと誘導できず、宿泊を獲得することが難しい状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>現在の外国語版ホームページに宿泊予約機能を追加することにより、外国語版ホームページから外国人観光客の市内宿泊施設への宿泊予約を獲得でき、誘客を図ることができます。</p> <p>そのため、加賀温泉郷への旅行を考えている外国人の窓口となる加賀温泉郷宿泊ポータルサイトを構築します。</p> <p>そして、外国語版ホームページを魅力あるものに更新しながら、情報発信と一体とした誘客を図り、加賀温泉郷への旅行意欲を高めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊施設事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>宿泊施設との調整</p> <p>宿泊予約システム構築</p> <p>宿泊予約システム稼動</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 57

事業名	体験型観光の充実				
現 状	<p>外国人旅行者の旅のスタイルやパターンは、年々変化しており、初めて日本を訪ねる外国人から、日本を二度三度と訪れるリピーターまで多様化し、団体旅行から個人旅行へとシフトしています。</p> <p>そうした変化にともない、外国人観光客の消費志向が、最近では、モノからコトへ移ってきており、地域の生活や文化を体験し、住民との交流を楽しむという日本ならではの体験観光を目的にする外国人観光客も増えています。</p>				
事業内容 と目的	<p>市内には、工芸体験、フルーツ狩り、お座敷体験など、日本文化が体験できるプログラムが数多くありますが、体験型観光では思いがけない場所がSNSをきっかけとして人気になったりします。</p> <p>そのため、例えば、「桜」や「雪」、「東谷での自然体験」など、体験型観光を外国人向けに再構築し、充実させ、誘客を図ります。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内各団体 / 各事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>体験プログラム洗い出し</p> <p>体験プログラム整理・再構築</p> <p>体験プログラム実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 23 広域連携による誘客促進

事業 58

事業名	越前加賀インバウンド推進機構との連携				
現 状	訪日外国人旅行者の滞在日数に合わせ、テーマやストーリー性に基づいた観光資源や観光地域を結び付け、市内外の地域を跨いだ魅力ある広域観光周遊ルートを形成することは、訪日外国人旅行者の地方誘致にも繋がり、それぞれの地域の活性化に繋がっていきます。自治体単独でのプロモーションよりも広域連携されたものをプロモーションされたほうが、旅行会社も商品を企画しやすく、メディアも注目しやすいというメリットがあります。				
事業内容 と目的	越前加賀インバウンド推進機構での広域連携を継続し、情報発信や誘客活動に取り組みます。そして、それぞれの観光地との連携を強め、相乗効果を引き出すことで、加賀市への誘客増に繋げていきます。また、取り組み内容に重複がないよう役割分担をしながら、誘客を図ります。 そして、これらの広域連携の取り組みの中で、小松空港へのLCC就航に向けた働きかけを行い、観光誘客を図ります。				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・越前加賀インバウンド推進機構 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>受け入れ体制・滞在環境整備に関するシステム整備・観光ガイド育成</p> <p>広域連携プランの商品販売</p> <p>台湾・香港・タイへのセールスコール、 メディア招聘、多言語ツールによるPR活動</p> <p>広域連携DMO設立検討調査</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p> <p>LCC就航に向けた関係機関への協力要請</p>				

事業 59

事業名	北陸・中部圏地域の観光資源の有効活用				
現 状	<p>金沢市を始め、加賀市から少し距離はあるものの、富山県や岐阜県には、世界的に評価されるような魅力的な観光スポットが数多くあり、当該地域は加賀温泉郷への来訪客にとっての周遊ルートに十分成りえます。</p> <p>特に、外国人観光客にとっては、そのニーズが高いと考えられます。</p> <p>歴史的なストーリーにおいて共通する資源などもあり、地域間の連携を強化することで、より効果的な誘客促進が図られると考えられます。</p> <p>これまでは、当該地域の観光資源を活用したメニューは殆どありませんでしたが、今後は、インバウンド観光を中心とした誘客促進を図る上でも、有効に活用することが必要と考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>金沢市、立山・黒部、五箇山、白川郷、飛騨高山など、自然や歴史的にも価値のある非常に魅力的な観光資源を、加賀温泉郷の宿泊客に提供できるメニューを企画開発します。</p> <p>源平合戦ゆかりの地、松尾芭蕉が立ち寄ったゆかりの地など、歴史的な共通点をストーリー化させ、魅力的な観光ルートを構築します。</p> <p>交通手段を充実させ利便性を高めることで、インバウンド観光客にとって魅力的なルート化を進めるとともに、より広範囲で周遊する来訪客をターゲットとしたメニューづくりについても検討を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀市内観光事業者 ・対象観光スポット所在自治体 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>広域観光ルートの企画立案</p> <p>メニュー化による観光商品化</p> <p>情報発信強化・観光商品の販売促進</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

施策 24 受け入れ態勢の整備

事業 60

事業名	外国人対応人材の育成				
現 状	<p>観光庁が行った外国人旅行者への受け入れ環境についての調査では、旅行中に困ったこととして、「施設スタッフとのコミュニケーションがとれない」が一番多くなっています。「言葉の壁」という不安から、外国人観光客に対して消極的になっては、地域に外国人観光客を呼び込めず、地域活性化に繋がりません。</p> <p>市では、2016年11月より観光情報センター「KAGA旅・まちネット」に外国人旅行者に対する案内をする外国人スタッフを配置しています。また、これまでに宿泊施設の従業員を対象としたセミナーや英語教室等を開催しています。更に、2017年3月に開催したペルシャフェアにおいて、ハラル対応を目的とした研修会を開催しています。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光情報センター「KAGA旅・まちネット」に外国語対応スタッフの配置を今後も継続して行い、外国人旅行者に対する観光案内所のサービスの充実を図ります。</p> <p>また、外国人観光客を受け入れる宿泊施設に対する外国人対応研修を継続するとともに、これまでに実施していない観光施設・商店街・飲食店等に対する外国人対応研修などを開催し、ハラル対応を含め、おもてなし力向上のための支援を行います。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀調理師会 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>外国語対応スタッフの配置</p> <p>宿泊施設に対する外国人対応研修の実施</p> <p>宿泊施設以外の外国人対応研修の企画立案</p> <p>宿泊施設以外の外国人対応研修の実施</p> <p>ハラル対応研修の実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 61

事業名	通信環境の向上				
現 状	<p>観光庁が行った外国人旅行者への受け入れ環境についての調査では、旅行中に困ったこととして、「公衆無線LANが利用できない」が二番目に多くなっています。</p> <p>そのような状況の中、2017 年度に市内温泉地の観光スポットに屋外フリーWi-Fi の整備を行っています。</p> <p>また、温泉地の一部の商店街では、民間でのフリーWi-Fi の整備も行っています。</p> <p>しかし、市内温泉地の観光スポット以外では、通信環境がなく、外国人観光客にとっては、ストレスフリーの旅行環境の整備がなされていない状況です。</p>				
事業内容 と目的	<p>外国人観光客がストレスなく、快適に観光を満喫できるよう、三温泉地の観光スポットのフリーWi-Fi を更に面的に広げ整備します。</p> <p>また、民間が設置するフリーWi-Fi から市のフリーWi-Fi への接続を容易に行うことができるよう、フリーWi-Fi 同士の連携や支援を行います。</p> <p>更に、大聖寺や橋立、動橋などの温泉地以外の観光スポットでの通信環境整備のため、SIM カードやWi-Fi ルーターのレンタル等の導入の検討を行います。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀市内商店街 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画	<p>→ Wi-Fi 整備</p> <p>→ Wi-Fi エリアの拡大</p> <p>→ 民間フリーWi-Fi との連携</p> <p>→ SIM カードやWi-Fi ルーター等の導入検討</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 62

事業名	サイン等による案内の充実				
現 状	<p>2017年度に、外国人観光客が観光スポットや街中で迷うことなく移動できるよう、外国語誘導サインの整備を行っています。</p> <p>また、宿泊施設、商業施設、飲食店などに対し、外国語表記や外国語食事メニューなどの整備に対する補助を行っていますが、まだまだ外国人観光客にとって、満足するものとはなっていません。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光地における既存の誘導サインを活かしながら、国際観光都市にふさわしい誘導サインの多言語化の充実を図ります。</p> <p>また、宿泊施設・商店街・飲食店等は、多言語に対応する外国人向けの案内表示やメニュー開発をしていくことが望まれることから、案内表示やメニュー等の多言語化を支援します。</p> <p>更に、翻訳デバイス機器等、外国人とのコミュニケーションツールの導入を検討します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀市内飲食店 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>2017年度: 誘導サイン整備</p> <p>2018年度: 案内サイン等の多言語化の実態把握</p> <p>2019年度～2021年度: 案内サイン等の多言語化支援</p> <p>2020年度～2021年度: コミュニケーションツール導入検討</p> <p>2019年度～2021年度: 各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

事業 63

事業名	クレジット決済システム導入等の環境整備への支援				
現 状	<p>観光庁が行った外国人旅行者への受け入れ環境についての調査では、旅行中に困ったこととして、「公衆無線LANが利用できない」や「施設スタッフとのコミュニケーションがとれない」の次に多いのが、「クレジットカードが利用できない」や「両替やATMが利用できない」となっています。</p> <p>外国人観光客にとっては、これらのニーズが高くなっています。</p>				
事業内容 と目的	<p>政府が推進する地方創生の活動として、金融機関などが、カード決済や電子マネー利用などのキャッシュレス決済の普及に取り組んでいます。</p> <p>こうした取り組みを推進することで、外国人旅行者の旅行中の満足度を向上させ、市内での消費を促進することができ、更にそうした観光地であることが認知されていくことで観光客の増加にも繋がります。</p> <p>そうしたことから、商店街や飲食店に対して、金融機関などと共同で研修会を開催するなど、金融機関などが行う取り組みへの支援を行います。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 / 経済環境部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 / 旅館協同組合 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・金融機関など 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>現状・実態把握</p> <p>支援メニュー内容の検討・決定</p> <p>支援メニュー実施</p> <p>各種事業の検証→改善→継続展開 (事業拡充・新規事業の展開)</p>				

第6節 戦略6：観光推進機能の充実

施策25 加賀温泉郷DMOの運営強化

事業64

事業名	地域観光における経営機能の充実と観光人材の育成強化				
現 状	<p>国内大手観光関連事業者らが送り出す団体観光客の受け入れから個人旅行や小グループ旅行に形態が移行する中、加賀温泉郷においてもその対応を図ってきましたが、近年はそのニーズが更に多様化し、更には訪日外国人の増加に伴い、地域ならではの新たな体験や感動を提供する必要性が生じています。</p> <p>観光地では、自らが売り込める魅力的な商品やサービスを開発し、観光客を誘客しながらもてなす観光地づくりを進めることが喫緊の課題となっており、地域として主体的・戦略的な集客の仕組みづくりや、その運営を行う人材の育成が求められています。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光客の多様化した一人ひとりのニーズに合ったサービスを展開するとともに、民間的手法を導入した効果的なブランディングやプロモーションを行い、競争力のある観光地の形成を促進します。</p> <p>そのため、一般社団法人加賀市観光交流機構を加賀温泉郷DMOと位置付け、観光関連事業者のみならず様々な業態の事業者や市民団体などの参画のもと、これまで以上に地域全体の合意形成を図りながら、地域資源を最大に活用した観光マーケティングを進めます。</p> <p>特に、近年大幅に増加傾向にある外国人観光客のニーズに対応することで、観光消費額を増加させ、地域に還元できるよう組織強化を図ります。</p> <p>民間の人材・専門員の派遣を受け、そのノウハウを活かしたOJT教育を行いながら人材育成の強化を図ります。</p> <p>※ DMO (Destination Marketing/ Management Organization) とは、マーケティング&プロモーションやブランディング、品質管理・安全管理・資源管理等、観光地の維持・成長に向けたマネジメントを担う一連の組織を指します。</p> <p>※ OJT (On-the-Job Training) とは、職場での実務を通して、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し、修得させることで業務処理能力や力量を育成する活動を指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>関係機関との合意形成</p> <p>観光庁へのDMO本登録</p> <p>民間の人材・専門員を配置し、人材の育成</p> <p>マーケティング、ブランディング、プロモーション</p> <p>訪日外国対応</p>				

事業 65

事業名	観光実態の調査・分析による課題改善				
現 状	<p>これまで、観光に関する事業についての指標としては、宿泊客数や宿泊施設の日帰り客数のみを対象としていました。</p> <p>今後は、より精度の高い効果的な事業を展開するため、これまでの感性に頼ったマーケティングから脱却し、観光客に関する詳細なデータを収集・分析し、観光客のニーズを把握しながらターゲティングプロモーションを展開するデータマーケティングに取り組む必要があると考えられます。</p>				
事業内容 と目的	<p>観光推進に向けた目標指標（K P I）を設定し、観光客数や宿泊客数のほか、旅行消費額、知名度や認知度、人気度、来訪者満足度、リピーター率、WEBアクセス状況などの観光実態を短期サイクルで継続的に調査し、その結果を観光誘客に向けた施策・事業に反映させます。</p> <p>事業の効果検証を行い、その結果を「見える化」させ、P D C Aサイクルに反映させながら地域観光の課題改善を効果的に進めます。</p> <p>調査・分析結果は、地域全体で共有しながら、課題改善に向けて地域が一体となった取り組みを進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内各団体 / 各事業者 				
実施年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度～
計 画					

事業 66

事業名	加賀温泉郷経営塾による観光業界の経営改革				
現 状	<p>観光産業を中心としたサービス業においては、求人倍率が全職種の中でも極めて高く、非常に人気の低い職種・産業であり、温泉旅館において人手不足が深刻化しており、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、2022年度末の北陸新幹線敦賀延伸が差し迫る中、温泉旅館における従業員の確保は、本市にとって最重要かつ喫緊の課題となっています。</p> <p>当該課題に対し、2017年度に国の地方創生交付金を活用し、一般社団法人加賀市観光交流機構が「加賀温泉郷経営塾」を発足させ、「KAGAルートプロジェクト」を始動させました。</p> <p>プロジェクトでは、市内宿泊事業者が経営合理化を図りながら就労環境の改善と就労イメージ向上など働き方改革を進めています。</p>				
事業内容 と目的	<p>2019年度までは、地方創生推進交付金を活用しながら、「加賀温泉郷経営塾」による「KAGAルートプロジェクト」を発展させながら、観光産業の中心的な役割を担う宿泊事業者における人材確保の強化と経営合理化の更なる推進を図ります。</p> <p>事業においては、民間のプロフェッショナル人材を活用し、就労環境の改善や就労イメージ向上に向けた研修会の開催、経営合理化に向けた検討会などを開催しながら、課題解決に向けた効果的な取り組みを、官民一体の連携体制のもと進めます。</p> <p>2020年度以降は、国の交付金に頼ることのない自立自走化を目指しながら、宿泊事業者のみならず観光業界ひいては加賀市産業全体に波及させることも検討し、地域経済の活性化を目指します。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 観光協会 ・加賀商工会議所 / 山中商工会 ・加賀農業協同組合 / 石川県漁業協同組合加賀支所 ・加賀市内各団体 / 各事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>加賀温泉郷経営塾による「KAGAルートプロジェクト」の展開</p> <p>加賀温泉郷経営塾の自立・自走</p> <p>産業全体での展開を検討</p> <p>新たなプロジェクトの展開</p>				

施策26 観光推進に向けた財源確保

事業 67

事業名	「宿泊税」導入等の推進				
現 状	<p>加賀市においては、温泉宿泊客を中心とした来訪客に十分満足してもらえるよう、入湯税全額を観光推進施策の事業費に充てています。</p> <p>今後、世界から選ばれる温泉共創地を目指す上で、地域の魅力づくりや情報発信の更なる強化が必要となります。</p> <p>特に、近年大きく成長傾向にあるインバウンド観光の推進に向けての基盤整備も非常に重要となってきます。</p> <p>そのような状況を踏まえ、今後は、入湯税を全額充当しても、来訪客に満足してもらうための事業費を十分に確保することが困難となることが見込まれ、新たな財源確保に向けた検討を進める必要があります。</p>				
事業内容 と目的	<p>地域の魅力づくりや情報発信の更なる強化を図り、来訪客に満足してもらうため、そのことを目的とした事業費に充てる財源確保に向け、加賀市内の宿泊客への新たな課税制度の導入について検討を進めます。</p> <p>導入に向けては、東京都や大阪府における宿泊税の導入や釧路市での入湯税の税率引き上げなども参考にしながら、十分に事前検証を行います。</p> <p>また、宿泊客の意向などを調査し、宿泊客の負担増が加賀温泉郷のイメージダウンとならないよう、宿泊事業者とも協議しながら慎重に検討を進めます。</p>				
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市役所 総務部 / 市民生活部 / 観光戦略部 ・一般社団法人 加賀市観光交流機構（加賀温泉郷DMO） ・加賀市内三温泉 旅館協同組合 ・加賀市内宿泊事業者 				
実施年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度～
計 画	<p>先進地域の状況調査の実施</p> <p>宿泊客への意向調査の実施</p> <p>調査結果の検証・分析</p> <p>課税制度内容の検討</p> <p>新たな課税制度の導入</p>				

第5章 総括

全国有数の三温泉地を抱え、歴史、伝統、文化、自然、食など、あらゆる観光資源に恵まれている加賀市は、多くの観光客が訪れる温泉観光都市として栄えてきました。

しかし、その繁栄は、昭和60年代をピークに年々減少の一途をたどり、誘客促進に向けた新たな取り組みが必要となり、第1次観光戦略プランを策定し、様々な施策を展開した結果、2014年(平成27年)3月の北陸新幹線金沢開業を契機に、観光入り込み客数は大きく増加いたしました。

現状においては、その効果も落ち着きを見せ始め、更なる戦略的な施策を展開する必要が生じており、今般、これまでのプランを更にバージョンアップした「第2次観光戦略プラン」を策定いたしました。

本プランにおいては、従来の温泉地の魅力づくりや情報発信の強化に加え、特に、自然・歴史・文化資源を戦略的に観光活用することとしています。

また、インバウンド対策においては、これまで以上に誘客強化を図るべく、事業内容を充実させることとしています。

今後に向けては、観光マーケティング機能を充実させる必要があることから、加賀温泉郷DMOによる地域観光の運営強化を図ります。

日本においてははいよいよ観光ビッグバンを迎えると言われる中、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、2023年春の北陸新幹線敦賀延伸による加賀温泉駅開業という、加賀市にとって千載一遇の機会を最大限に生かし、2018年を加賀温泉郷における観光イノベーション元年と位置付け、本プランを着実に実行してまいります。